

教科	国語	学年	第1学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
なかよしの き	2	◇「自己紹介ビンゴゲーム」を通して、自身のことを紹介し合う。 △言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 △相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。 ◇目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ◇相手を意識して、話の中心が明確になるように理由や事例などを挙げながら、話の構成を考えること。 ◇話の中心が伝わるように、場面を意識して言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。 ◇必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつこと。 ◇質問するなどして情報を集めたり、それらを発表したりする活動。	○姿勢や口形、発声に注意して話している。	○「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。	○進んで場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉え、学習の見通しをもって内容や感想を話し合おうとしている。
たのしい いちにち	2	◇学校生活のさまざまな場面の挿絵をもとに、挨拶の言葉を考え、場面に合わせた挨拶ができるようにする。 △言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 △音節と文字との関係、セントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。 ◇身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ◇伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。 ◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。	○姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。	○「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。	○積極的に姿勢や口形、発声や発音に注意して、学習の見通しをもって挨拶をしようとしている。
わたしの なまえ	2	◇自己紹介の場面の挿絵をもとに、話し方や聞き方について話し合い、言語生活を広げる。 △音節と文字との関係、セントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。 ◇伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。 ◇話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。 ◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。	○姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。	○「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。	○積極的に姿勢や口形、発声や発音に注意して、学習の見通しをもって名前を紹介し合おうとしている。

こえの おおきさ どれくらい	1	◇挿絵をもとに、場面に応じた話し声の大きさを意識する。 ◇伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。 ◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。		○「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。	○積極的に姿勢や口形、発声や発音に注意して、学習の見通しをもって話そうとしている。
かいて みよう	2	△正しい鉛筆の持ち方、正しい姿勢に気をつけて線をなぞったり文字を書いたりする。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 △姿勢や筆記具の持ち方を正しくして書くこと。	○平仮名を読み、書いている。		○進んで平仮名を読んだり書いたりし、学習課題にそって言葉を書こうとしている。
こえを あわせて あいうえお	1	◇「こえを あわせて あいうえお」を、姿勢や口形、声の大きさや速さなどに注意してはっきりした発音で読む。 △音節と文字との関係、セントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。 △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ◇伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。 ◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。	○語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。	○「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。	○積極的に姿勢や口形、発声や発音に注意して、学習の見通しをもって音読しようとしている。
みつめて はなそう、たのしく きこう	2	◇挿絵から見つけた話題にそって話し、相手の話題に対して、簡単なことを尋ねたり、応答したりする。 △言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ◇身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ◇互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて話をつなぐこと。 ◇尋ねたり応答したりするなどして、少人数で話し合う活動。	○言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。	○「話すこと・聞くこと」において、互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて話をつないでいる。	○積極的に互いの話に関心を持ち、学習の見通しをもって尋ねたり応答したりしようとしている。
かき、かぎ	2	△清音と濁音、半濁音の違いを理解して、正しく読んだり書いたりし、主語と述語の関係や文の終わりに句点がつくことを理解し、正しく文を書く。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 ■簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。	○長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使っている。	○「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。	○積極的に濁音・半濁音の表記、句点の打ち方を理解し、学習課題に沿って簡単な文を書こうとしている。

ことばを あつめよう	2	△言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、つながる言葉を考えて読んだり、書いたりする。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにすること。	○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使っているとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにしている。		○進んで身近なことを表す語句の量を増やし、学習の見通しをもって読んだり書いたりしようとしている。
くまさんと ありさんの ごあいさつ	3	□登場人物の様子を考えながら、楽しく音読する。 △丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れること。 △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 □場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。 □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。 □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。	○語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。	○「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。	○進んで場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉え、学習の見通しをもって内容や感想を伝えようとしている。
ねこ、ねっこ	2	△促音の読み方と書き方を理解し、句読点の使い方を理解する。 △音節と文字との関係、セントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 △丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れること。 ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 ■簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。	○長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使っている。 ○文の中における主語と述語との関係に気付いている。	○「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。	○積極的に促音の表記、読点の使い方を理解し、学習課題に沿って簡単な文を書こうとしている。
ほんを よもう	2	△読みたい本を探して読んだり、読んだ本について友達や先生に話したりして、読書を広げる。 △昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむこと。 △読書に親しみ、いろいろな本があることを知ること。 □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。	○読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。		○積極的に読書に親しみ、学習の見通しをもって感想を伝え合おうとしている。

ことばを つなごう	2	△言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、つながる言葉を考えて読んだり、書いたりする。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにすること。 ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 ■簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。	○身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使っているとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにしている。	○「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。	○進んで身近なことを表す語句の量を増し、学習課題に沿って読んだり書いたりしようとしている。
たのしく よもう 1 あいうえおの うた	1	△様子を思い浮かべながら、リズムよく音読する。 △音節と文字との関係、セントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。 △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。	○語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。		○進んで語のまとまりや言葉の響きなどに気を付け、学習の見通しをもって音読しようとしている。
ごじゅうおん	1	△五十音表を見て、これまでに学んだ平仮名の学習を振り返るとともに、五十音表の基本的な特徴に気づく。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。	○長音、拗音、促音、撥音などの表記の仕方を理解して文や文章の中で使っている。また、また、平仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使っている。		○積極的に平仮名を読み、今までの学習を生かして五十音表の特徴に気づこうとしている。
けむりの きしゃ	5	□文章と挿絵を結びつけながら、場面の様子について人物の行動を中心に想像を広げながら読む。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 □場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。 □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。 □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。	○語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。	○「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。	○進んで場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉え、学習の見通しをもって登場人物に手紙を書こうとしている。
のばす おん	2	△長音の読み方と書き方を理解する。 △音節と文字との関係、セントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。	○長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使っている。		○積極的に長音の表記の仕方を理解し、学習の見通しをもって読んだり書いたりしようとしている。

せんせい、あのね	2	■話し言葉がそのまま文になることを知り、先生に話しかけるかたちの簡単な文章を書くとともに、敬体の文章に慣れるようにする。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 △丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れること。 ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。 ■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。	○文の中における主語と述語との関係に気付いている。	○「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。	○進んで主語と述語との関係に気付こうとし、学習の見通しをもって簡単な文章を書こうとしている。
みんなに はなそう	4	◇身近なことや経験したことから話題を決め、必要なことを思い出して、順序を考えて話す。 △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 △丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れること。 ◇身近なことや経験したことから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ◇相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えること。 ◇話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。 ◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。	○丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使っている。	○「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。	○積極的に丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付け、今までの学習を生かして身近なことを話そうとしている。
たのしく よもう 2 がぎぐげごの うた	1	△様子を思い浮かべながら、リズムよく音読する。 △音節と文字との関係、セントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。 △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。	○語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。		○進んで語のまとまりや言葉の響きなどに気を付け、学習の見通しをもって音読しようとしている。
よく みて かこう	2	■身近なものを観察し、気づいたことを簡単な絵や文で表し、書いたものを読み合っ て感想を伝え合う。 △言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。 ■文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。 ■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。	○言葉には、事物の内容を表す働きを伝える働きがあることに気付いている。	○「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。	○進んで経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、学習の見通しをもって記録する文章を書こうとしている。

すずめの くらし	6	□問いの文や写真に導かれながら、すずめについて説明した文章を読む。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 △読書に親しみ、いろいろな本があることを知ること。 □時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。 □文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。 □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 □事物の仕組みを説明した文章などを読み、分かったことや考えたことを述べる活動。	○長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名及び片仮名を読み、書いている。	○「読むこと」において、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。	○積極的に時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉え、学習の見通しをもって分かったことや思ったことを紹介しようとしている。
しゃ、しゅ、しょ	2	△拗音や拗長音に注意して、身のまわりから言葉を見つけ、正しく読んだり書いたりする。 △音節と文字との関係、セントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。	○長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使っている。		○積極的に拗音の表記の仕方を理解し、学習の見通しをもって読んだり書いたりしようとしている。
たのしく よもう 3 きやくきよの うた	1	△様子を思い浮かべながら、リズムよく音読する。 △音節と文字との関係、セントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。 △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。	○語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。		○進んで語のまとまりや言葉の響きなどに気を付け、学習の見通しをもって音読しようとしている。
しらせたい ことを かこう	12	■身近なできごとや経験から知らせたいことを選び、簡単な文章を書く。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。 ■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 ■文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。 ■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。 ☆生活科・特別活動:敬体や方言を使ったり、書いたりした文を見直ししながら、相手	○長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使っている。	○「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。	○積極的に長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解し、学習の見通しをもって簡単な文章を書こうとしている。

は, を, へ	1	△助詞の表記と語中の表記とを区別して理解する。 △長音, 拗音, 促音, 撥音などの表記, 助詞の「は」, 「へ」及び「を」の使い方, 句読点の打ち方, かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また, 平仮名及び片仮名を読み, 書くとともに, 片仮名で書く語の種類を知り, 文や文章の中で使うこと。 △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 ■簡単な物語をつくるなど, 感じたことや想像したことを書く活動。	○助詞の「は」, 「へ」及び「を」の使い方, 句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使っている。また, 平仮名を読み, 書くとともに, 文や文章の中で使っている。		○積極的に助詞の「は」, 「へ」及び「を」の使い方を理解し, 学習の見通しをもって簡単な文を書こうとしている。
としょかんへ いこう	2	△図書館の基本的な利用方法を知り, 興味のある本を探したり, 紹介し合ったりする。 △昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして, 我が国の伝統的な言語文化に親しむこと。 △読書に親しみ, いろいろな本があることを知ること。 □読み聞かせを聞いたり物語などを读んだりして, 内容や感想などを伝え合ったり, 演じたりする活動。	○読書に親しみ, いろいろな本があることを知っている。		○積極的に読書に親しみ, 学習の見通しをもって本を紹介しようとしている。
おはなしの くに	2	△挿絵を見ながら昔話などに興味をもち, 読書をする。 △昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして, 我が国の伝統的な言語文化に親しむこと。 △読書に親しみ, いろいろな本があることを知ること。 □場面の様子や登場人物の行動など, 内容の大体を捉えること。 □文章の内容と自分の体験とを結び付けて, 感想をもつこと。 □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 □読み聞かせを聞いたり物語などを读んだりして, 内容や感想などを伝え合ったり, 演じたりする活動。	○読書に親しみ, いろいろな本があることを知っている。	○「読むこと」において, 場面の様子や登場人物の行動など, 内容の大体を捉えている。	○積極的に読書に親しみ, 学習の見通しをもって本を読もうとしている。
おおきな かぶ	6	□繰り返しの展開を楽しみながら, 場面の様子について, 登場人物の行動を中心に想像を広げて読む。 △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 □場面の様子や登場人物の行動など, 内容の大体を捉えること。 □場面の様子に着目して, 登場人物の行動を具体的に想像すること。 □文章の内容と自分の体験とを結び付けて, 感想をもつこと。 □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 □読み聞かせを聞いたり物語などを读んだりして, 内容や感想などを伝え合ったり, 演じたりする活動。	○語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。	○「読むこと」において, 場面の様子や登場人物の行動など, 内容の大体を捉えている。	○進んで場面の様子や登場人物の行動など, 内容の大体を捉え, 学習の見通しをもって内容や感想を伝えようとしている。

えにつき	4	■身のまわりのできごとや経験したことを、絵と文で表現する。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。 ■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 ■文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。 ■日記や手紙を書くなど、思ったことや伝えたいことを書く活動。	○長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使っている。	○「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。	○積極的に事柄の順序に沿って簡単な構成を考え、今までの学習を生かして絵日記を書こうとしている。
なつの おもいでを はなそう	5	◇相手の話の内容を受けて話したり、自分からすすんで話したりする。 △言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 △音節と文字との関係、セントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。 ◇身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ◇相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えること。 ◇伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。 ◇話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。 ◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。	○姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。	○「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。 ○「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。	○積極的に話し手が知らせたいことを落とさないように聞き、学習の見通しをもって質問や感想を言おうとしている。
かたかなの ことば	2	△身のまわりの片仮名で書く言葉や表記を理解し、正しく書く。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。	○片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使っている。		○積極的に片仮名で書く語の種類を知り、学習の見通しをもって読んだり書いたりしようとしている。
かたかなの ことば	2	△身のまわりの片仮名で書く言葉や表記を理解し、正しく書く。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。	○片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使っている。		○積極的に片仮名で書く語の種類を知り、学習の見通しをもって読んだり書いたりしようとしている。

けんかした 山	6	□場面の様子を想像しながら、お話を読む楽しさを味わう。 △第1学年においては、別表の学年別漢字配当表の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。 △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 □場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。 □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。 □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。	○当該学年に配当されている漢字を読んでいる。 ○語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。	○「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。	○進んで場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉え、学習の見通しをもって考えたことを発表したり文章にまとめたりしようとしている。
(みんなで たのしく よみましょう。)	2	□役割を決めてグループで音読する。 △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 □場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。 □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。 □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。	○語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。	○「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。	○進んで文章を読んで感じたことを共有し、学習の見通しをもって役割を決めて音読しようとしている。
かん字の はじまり	2	△漢字には、絵からできたものとしからできたものがあることを理解する。 △第1学年においては、別表の学年別漢字配当表の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。	○当該学年に配当されている漢字を読んでいる。		○進んで当該学年で配当されている漢字を読み、学習の見通しをもって読んだり書いたりしようとしている。
だれが、たべたのでしょうか	7	□問いの文と答えの文や写真と文の対応に気をつけながら、動物の食べ跡について説明した文章を読む。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 □時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。 □文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。 □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 □事物の仕組みを説明した文章などを読み、分かったことや考えたことを述べる活動。	○文の中における主語と述語との関係に気付いている。 ○語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。	○「読むこと」において、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。	○積極的に時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉え、学習の見通しをもって分かったことや思ったことを話そうとしている。

たのしかった ことを かこう	12	■日常生活の中から書くことを見つけ、簡単な文章を書く。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 ■経験したことや想像したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。 ■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 ■文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。 ■文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。 ■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。	○長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使っている。	「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。 ○「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。	○進んで経験したことから書くことを見つけ、学習の見通しをもって文章を書こうとしている。
かぞえうた	2	△数え歌をもとにして、漢字を使った数の読み方に慣れるようにする。 △第1学年においては、別表の学年別漢字配当表の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。 △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。 △長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付くこと。	○当該学年に配当されている漢字を読んでいる。 ○長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付いている。		○進んで言葉遊びに親しみ、学習の見通しをもってリズムよく音読しようとしている。
かぞえよう	3	△一から十までの漢数字を正しく読み、書く。 △音節と文字との関係、セントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。 △第1学年においては、別表の学年別漢字配当表の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。 △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。	○当該学年に配当されている漢字を読んでいる。		○進んで漢字を読み、学習の見通しをもって文や文章の中で使おうとしている。
学校の ことを つたえあおう	8	△音節と文字との関係、セントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。 △丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れること。 ◇身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ◇相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えること。 ◇伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。 ◇話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。 ◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。	○姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。	○「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。 ○「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。	○進んで伝えたい事柄や相手に応じて声の大きさや速さなどを工夫し、今までの学習を生かして聞いたことを伝えようとしている。

ことばで つたえよう	3	△目の前にあるものや経験したことなどを言葉を使って言い表し、言葉の便利さやおもしろさなどを理解する。 △言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。	○言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。		○進んで、言葉には事物の内容を表す働きや経験したことを伝える働きがあることに気付こうとし、学習課題に沿って言葉で表そうしている。
おもい出のアルバム	8	△長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 △共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。 ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。 ■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 ■文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。 ■文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。 ■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きたことを書く活動。	○長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使っている。	○「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。 ○「書くこと」において、文章を読み返す習慣を付けているとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりしている。 ○「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けている。	○積極的に文章に対する感想を伝え合い、学習の見通しをもってよいところを伝え合おうとしている。
かん字の ひろば ④ にて いる かん字	3	△形の似た漢字を正しく読んだり、書いたりする。 △第1学年においては、別表の学年別漢字配当表の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。 △共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。	○当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。		○積極的に漢字を読み、学習課題に沿って形の似た漢字を正しく読んだり書いたりしようとしている。
しりとりで あそぼう	1	△二音節単位でつなげていく「しりとり遊び」のあることを知り、実際に活動してみる。 △音節と文字との関係、セントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。 △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。	○音節と文字との関係、セントによる語の意味の違いなどに気付いている。		○進んで音節と文字との関係に気付こうとし、今までの学習を生かしてしりとりを楽しもうとしている。

お手がみ	15	△文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ■文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。 □場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。 □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。 □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 ■日記や手紙を書くなど、思ったことや伝えたいことを書く活動。 □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。	○文の中における主語と述語との関係に気付いている。	○「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けている。 ○「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。 ○「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。	○進んで文章を読んで感じたことを共有し、学習課題に沿って登場人物に宛てて手紙を書こうとしている。
こくごの がくしゅう これまで これから	2	◇■一年間の国語学習を振り返ったり、これからの学習について考えたりして、楽しみながら学習できるようにする。 ◇身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。 ◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。 ■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。		○「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいく。 ○「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。	○進んで話題を決め、これまでの学習を生かして思い出したことや二年生でどんな学習をしたいかを共有しようとしている。

教科	国語	学年	第2学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ちいさい おおきい	2	◇「自己紹介ビンゴゲーム」を通して、自身のことを紹介し合う。 △言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと △相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと ◇目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ◇相手を意識して、話の中心が明確になるように理由や事例などを挙げながら、話の構成を考えること ◇話の中心が伝わるように、場面を意識して言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。 ◇必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつこと。 ◇質問するなどして情報を集めたり、それらを発表したりする活動	○語のまとりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。	○「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。	○進んで言葉の響きなどに気を付けて、学習の見通しをもって音読しようとしている。
つづけて みよう ー日記ー	4	■毎日の生活を振り返り、日記を書く。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。 ■日記や手紙を書くなど、思ったことや伝えたいことを書く活動。	○長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使っている。	○「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。	○積極的に経験したことから書くことを見付け、学習の見通しをもって日記を書こうとしている。
声の ものさしを つかおう	3	◇いろいろな場面で、話す声の大きさを考えて、気をつけて話すことの大切さに気づく。 △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。 ◇身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ◇相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えること。 ◇伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。 ◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。	○音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。	○「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。	○積極的に声の大きさや速さなどを工夫し、学習の見通しをもって話そうとしている。

「えいっ」	13	△言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ◇伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。 ◇話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。 □場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。 □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 ◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。 □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。	○語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。	○「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。 ○「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。 ○「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。	○進んで場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉え、学習の見通しをもっておもしろいところを紹介しようとしている。
ひろい 公園	2	◇質問を落とさないように聞き、絵から答えを探す。 △言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 △共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。 ◇身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ◇相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えること。 ◇伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。 ◇話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。 ◇尋ねたり応答したりするなどして、少人数で話し合う活動。	○共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。	○「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。	○積極的に自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、学習課題に沿って質問に答えようとしている。
漢字の ひろば ① 画と 書きじゅん	2	△漢字の画と筆順について理解し、正しく書く。 △第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。	○前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。		○積極的に漢字の筆順を理解し、学習の見通しをもって正しい筆順で漢字を書こうとしている。
一年生で 学んだ 漢字 ①	2	△絵を見て想像したことをもとに、1年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。 ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 ■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。	○前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。	○「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。	○積極的に前学年で配当されている漢字を書き、学習の見通しをもって文を書こうとしている。

すみれと あり	13	△文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 △共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。 ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 □時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。 □文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。 □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 ■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。 □事物の仕組みを説明した文章などを読み、分かったことや考えたことを述べる活動。	○共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。	○「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。 ○「読むこと」において、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。 ○「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。	○進んで時間的な順序や事柄の順序などを考え、内容の大体を捉え、学習課題に沿って考えたことを文章にまとめようとしている。
「言葉あそび」を しよう	2	△平仮名四十七文字を全て使った歌のあることを知り、音読する。 △言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。 △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 △長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付くこと。	○語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。 ○長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付いている		○進んで長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付こうとし、学習の見通しをもって音読しようとしている。
かたかなで 書く 言葉	3	△片仮名で書く言葉の種類を知り、正しく使い分ける。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにすること。	○片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使っている。		○積極的に片仮名で書く語の種類を知ろうとし、今までの学習を生かして文を書こうとしている。
図書館で 本を さがそう	2	△図書館に行き、自分が調べたり読んだりしたいテーマの本を探して、読む。 △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 △読書に親しみ、いろいろな本があることを知ること。 □文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。 □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 □学校図書館などを利用し、図鑑や科学的なことについて書いた本などを読み、分かったことなどを説明する活動。	○読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。	○「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出してい。	○積極的に読書に親しみ、学習の見通しをもって本の探し方を知ろうとしている。

「生きものクイズ」を 作ろう	6	■生き物について知りたいことを調べ、クイズを作る。 △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。 △共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。 △読書に親しみ、いろいろな本があることを知ること。 ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。 ■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 ■文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。 ■文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。 ■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。	○共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。	○「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。	○積極的に必要な事柄を集めたり確かめたりし、学習の見通しをもって「生きものクイズ」を作ろうとしている。
漢字の ひろば ② なかまの 言葉と 漢字	2	△意味をもとに仲間に分けた漢字について理解する。 △第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。	○前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。		○積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を書き、学習の見通しをもって漢字の意味のつながりを知ろうとしている。
うれしく なる 言葉	4	△言葉が表す意味と、その言葉にこめられる気持ちについて考え、話し合う。 △言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。 ◇身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ◇伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。 ◇尋ねたり応答したりするなどして、少人数で話し合う活動。	○言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。	○「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。	○積極的に言葉には事物の内容を表す働きや経験したことを伝える働きがあることに気付こうとし、学習の見通しをもって「うれしくなる言葉」を伝え合おうとしている。
きつねの おきやくさま	16	△言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。 ■文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。 □場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。 □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。 □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 ■簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。	○語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。	○「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けている。	○進んで場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像し、学習課題に沿って好きな場面を発表しようとしている。

いなばの しろうさぎ	6	△古くから伝わっている話を、興味をもって聞き、場面の様子を想像する。 △昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむこと。	○昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しんでいる。		○進んで昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞き、今までの学習を生かして昔話や神話・伝承の書かれた本を探して読もうとしている。
「かんさつ発見カード」を 書こう	4	■観察して同じところや違うところを見つけ、「かんさつ発見カード」を書く。 △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。⇒◎知技(1)力 △共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。 ■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 ■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。	○文の中における主語と述語との関係に気付いている。 ○共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。	○「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。	○粘り強く事柄の順序に沿って簡単な構成を考え、学習の見通しをもって「かんさつ発見カード」を書こうとしている。
「言葉のなかまさがしゲーム」をしよう	2	△言葉が体系性をもって存在していることに気づき、上位語・下位語の概念に基づいて、言葉を探したりまとめたりすることができる。 △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。 △共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。	○身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使っているとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。		○積極的に、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付こうとし、学習の見通しをもって言葉を分類しようとしている。
話したいな、聞きたいな、夏休みのこと	6	◇夏休みの思い出を、順序を考えて話す。 △言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。 ◇身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ◇相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えること。 ◇伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。 ◇話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。 ◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。	○姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。	○「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えている。	○進んで相手に伝わるように話す事柄の順序を考え、今までの学習を生かして夏休みのできごとを紹介しようとしている。
漢字のひろば ③ 二つの漢字でできている言葉	2	△二つの漢字でできた言葉の構成について、問題を解きながら確認し、二つの漢字のつながり方を考える。 △第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。	○前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。		○積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を書き、学習の見通しをもって二つの漢字でできている言葉を読んだり書いたりしようとしている。

漢字のひろば ③ 一年生で学んだ漢字 ②	2	△絵を見て想像したことをもとに、1年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 ■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 ■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。	○文の中における主語と述語との関係に気付いている。	○「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。	○積極的に文の中における主語と述語の関係に気付こうとし、学習の見通しをもって文や文章を書こうとしている。
わにのおじいさんのたからもの	12	△言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 □場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。 □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。 □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 ■簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。	○言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。	○「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。 ○「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。 ○「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。	○進んで場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像し、学習課題に沿って登場人物に手紙を書こうとしている。
はんたいのいみの言葉、にたいみの言葉	2	△対義語や類義語があることを知り、身近な言葉から対義語や類義語を集めることができる。 △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。 △共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。	○身近なことを表す語句の量を増し、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。		○積極的に言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付こうとし、学習の見通しをもって言葉を分類しようとしている。
町の「すてき」をつたえます	11	△長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。 ■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 ■文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。 ■文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。 ■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。	○長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使っている。	○「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。 ○「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。 ○「書くこと」において、文章を読み返す習慣を付けているとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりしている。	○積極的に事柄の順序に沿って簡単な構成を考え、今までの学習を生かして報告する文章を書こうとしている。

この間に何があった？	2	△言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。 △共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。 ■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 □時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。 □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 ■簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 □学校図書館などを利用し、図鑑や科学的なことについて書いた本などを読み、分かったことなどを説明する活動。	○共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。	○「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。 ○「読むこと」において、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。 ○「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。	○積極的に共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解し、学習課題に沿って考えたことを文章にまとめようとしている
さけが大きくなるまで	11	△言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 △共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。 ◇相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えること。 □時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。 □文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。 □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 ◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。 □事物の仕組みを説明した文章などを読み、分かったことや考えたことを述べる活動。	○共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。	○「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えている。 ○「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。 ○「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。	○積極的に文章の中の重要な語や文を考えて選び出し、学習課題に沿ってさけが大きくなる様子を説明しようとしている。
おもしろいもの、見つけたよ	10	△身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。 △共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。 ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。 ■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 ■文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。 ■文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。 ■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きたことを書く活動	○身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使っているとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。	○「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。 ○「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けている。	○進んで文章に対する感想を伝え合い、学習の見通しをもって記録する文章を書こうとしている。

しを読もう てんとうむし 木	2	□イメージの自由な広がりをとおして、詩を楽しむ。 △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。 □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。 □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。	○身近なことを表す語句の量を増し、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。	○「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。	○進んで言葉の響きなどに気を付けて、学習の見通しをもって感想を発表しようとしている。
ないた赤おに	12	□登場人物の気持ちの移り変わりを考えながら、『ないた赤おに』を読み、心に残ったことを話し合う。 △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 □場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。 □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。 □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。	○語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。	○「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。	○進んで場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像し、学習課題に沿って心に残ったところを文章にまとめようとしている。
「お話しじゅつかん」を作ろう	6	△自分の読んだ本の中でいちばん心に残ったところを絵に描いて紹介する。 △言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 △読書に親しみ、いろいろな本があることを知ること □場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。 □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。 □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 □学校図書館などを利用し、図鑑や科学的なことについて書いた本などを読み、分かったことなどを説明する活動。	○読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。	○「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。	○積極的に読書に親しみ、学習の見通しをもって本を紹介しようとしている
「クラスお楽しみ会」をひらこう	3	△言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 △共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。 ◇身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ◇相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えること。 ◇伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。 ◇話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。 ◇互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐこと。 ◇尋ねたり応答したりするなどして、少人数で話し合う活動。	○共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。	○「話すこと・聞くこと」において、互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつないでいる。	○積極的に互いの話に関心を持ち、今までの学習を生かして少人数で話し合おうとしている。

みじかい言葉で	6	■心が動いたことを短い言葉で書く。 △言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。 ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 ■簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。	○言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。	○「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。	○積極的に語と語や文と文との続き方に注意しながら、学習の見通しをもって心が動いたことを短い言葉で書こうとしている。
漢字の広場 ④ 漢字のつかい方と読み方	2	△漢字の使い方や読み方、意味などを考えて漢字を正しく使う。 △第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。	○当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。		○積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を読み、学習の見通しをもって漢字を正しく使おうとしている。
漢字の広場 ④ 一年生で学んだ漢字 ③	2	△絵を見て想像したことをもとに、1年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 ■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 ■簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。	○前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。	○「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。	○積極的に前学年で配当されている漢字を書き、学習の見通しをもって文や文章を書こうとしている。
「しかけ絵本」を作ろう	12	□説明の順序に気をつけながら、「しかけ絵本」の仕組みや作り方を書いた文章を読む。 △言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 □時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。 □文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。 □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 ■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きたことを書く活動。 □事物の仕組みを説明した文章などを読み、分かったことや考えたことを述べる活動。	○言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。	○「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。 ○「読むこと」において、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。 ○「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。	○進んで時間的な順序や事柄の順序などを考え、学習課題に沿って「しかけ絵本」を作ろうとしている。

おもちゃのせつめい書を書こう	1	■おもちゃの作り方や遊び方の順序を考えて、説明書を書く。 △言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 △共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。 ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。 ■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 ■文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。 ■文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。 ■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。	○共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。	○「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。 ○「書くこと」において、文章を読み返す習慣を付けているとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりしている。	○粘り強く語と語や文と文との続き方に注意し、学習の見通しをもって説明する文章を書くとしている。
しを読もう せかいじゅうの海が	2	□イメージの自由な広がりをとおして、詩を楽しむ。 △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。 △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 □場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。 □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。 □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。	○身近なことを表す語句の量を増し、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。	○「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。	○積極的に文章を読んで感じたことや分かったことを共有し、学習の見通しをもって想像したことを発表しようとしている。
かさこじぞう	11	△身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。 △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 △昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむこと。 ◇伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。 ◇話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。 □場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。 □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。 □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 ◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。 □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。	○語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。	○「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。 ○「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。 ○「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。	○進んで場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像し、学習の見通しをもって音読発表会をしようとしている。
むかしのあそび	3	△日本に古くから伝承されている昔遊び(正月遊び)を知り、実際に遊ぶことを通してその魅力を知る。 △昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむこと。 △長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付くこと。	○長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付いている。		○進んで長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付き、学習の見通しをもってかたるたを楽しもうとしている。

むかしのあそびをせつめいしよう	4	◇昔の遊びについて、遊び方を調べて説明する。 △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。 ◇身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ◇相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えること。 ◇伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。 ◇話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。 ◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。	○姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。	○「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えている。	○進んで相手に伝わるように話す事柄の順序を考え、今までの学習を生かして昔の遊びの遊び方を説明しようとしている。
主語とじゅつ語	3	△文を読んで、主語と述語の対応を考え、正しく使うことができる。 △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 △共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。	○文の中における主語と述語との関係に気付いている。		○積極的に文の中における主語と述語との関係に気付き、学習の見通しをもって文を読んだり書いたりしようとしている。
漢字の広場 ⑤ 同じ読み方の漢字	2	△同じ読み方の漢字を集め、漢字を正しく使う。 △第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。	○当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。		○積極的に当該学年までに配当されている漢字を読み、学習の見通しをもって同じ読み方の漢字を正しく使おうとしている。
こんなことができるようになったよ	13	△長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 △丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れること。 ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。 ■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 ■文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。 ■文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。 ■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。	○長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使っている。	○「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。 ○「書くこと」において、文章を読み返す習慣を付けているとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりしている。 ○「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けている。	○積極的に、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりし、学習の見通しをもって文章を書こうとしている。
音や様子をあらわす言葉	3	△擬声語や擬態語のはたらきなどを理解し、文の中で使うことができる。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。	○身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使っているとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。		○積極的に、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、学習の見通しをもって文の中で使おうとしている。

漢字の広場 ⑥ 組み合わせてできている漢字	2	△同じ部分をもつ漢字を集め、漢字を正しく使う。 △第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 △共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。	○当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。		○積極的に当該学年までに配当されている漢字を読み、学習の見通しをもって同じ部分をもつ漢字を正しく使おうとしている。
漢字の広場 ⑥ 一年生で学んだ漢字 ④	2	△絵を見て想像したことをもとに、1年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 ■文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。 ■簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。	○前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。	○「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。	○積極的に前学年で配当されている漢字を書き、学習の見通しをもって文を書こうとしている。
アレクサンダとぜんまいねずみ	16	△言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 □場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。 □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。 □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 ■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きたことを書く活動。 □読み聞かせを聞いたり物語などを读んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。	○言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。	○「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。 ○「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。	◎「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。 ○進んで文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもち、学習課題に沿って文章にまとめようとしている。
国語の学習 これまで これから	2	◇■一年間の国語学習を振り返ったり、これからの学習について考えたりして、楽しみながら学習できるようにする。 ◇身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ◇話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。 ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。 ■文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。 ◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。 ■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きたことを書く活動。		○「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。 ○「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。	○進んで経験したことから書くことを見付け、今までの学習を生かして思い出したことや三年生でどんな学習をしたいかを共有しようとしている。

教科	国語	学年	第3学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
「じこしょうかいピンゴゲーム」をしよう	2	◇「自己紹介ピンゴゲーム」を通して、自身のことを紹介し合う。 △言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 △相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。 ◇目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ◇相手を意識して、話の中心が明確になるように理由や事例などを挙げながら、話の構成を考えること。 ◇話の中心が伝わるように、場面を意識して言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。 ◇必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつこと。 ◇質問するなどして情報を集めたり、それらを発表したりする活動。	○相手を見て話したり聞いたりしているとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。	○「話すこと・聞くこと」において、目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選んでいく。	○進んで日常生活の中から話題を決め、学習の見通しをもって情報を集め、自身のことを紹介し合おうとしている。
かえるのびよん	2	□姿や様子をイメージしながら、工夫して音読する。 △文章全体の内容や構成の大体を意識しながら音読すること。 △幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 □登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えること。 □登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。 □詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。	○文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。	○「読むこと」において、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。	○進んで登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、学習課題に沿って工夫して音読しようとしている。

白い花びら	9	△様子や行動, 気持ちや性格を表す語句の量を増し, 話や文章の中で使うとともに, 言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し, 語彙を豊かにすること。 △主語と述語との関係, 修飾と被修飾との関係, 指示する語句と接続する語句の役割, 段落の役割について理解すること。 △幅広く読書に親しみ, 読書が, 必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 ■気に入った表現について, 書こうとしたことが明確になっているかなどについて, 文章の内容や表現のよいところを見付けること。 □場面の移り変わりや登場人物の行動, 気持ちの変化などについて, 叙述を基に捉えること。 □場面の移り変わりと結びつけて, 登場人物の性格や気持ちの変化, 情景について具体的に思い描くこと。 □文章などを読んで理解したことに基づいて, 感想や考えを持つこと。 □文章などを読んで感じたことや考えたことを共有し, 一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。 ■詩や物語をつくるなど, 感じたことや想像したことを書く活動。 □詩や物語などを読み, 内容を説明したり, 考えたことなどを伝え合ったりする活動。	○主語と述語との関係, 修飾と被修飾との関係, 指示する語句と接続する語句の役割, 段落の役割について理解している。 ○幅広く読書に親しみ, 読書が, 必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。	○「書くこと」において, 書こうとしたことが明確になっているかなど, 文章に対する感想や意見を伝え合い, 自分の文章のよいところを見付けている。 ○「読むこと」において, 登場人物の行動や気持ちなどについて, 叙述を基に捉えている。 ○「読むこと」において, 登場人物の気持ちの変化や性格, 情景について, 場面の移り変わりと結びつけて具体的に想像している。	○進んで登場人物の気持ちの変化について, 場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し, 学習の見通しをもって考えたことを友達と紹介し合おうとしている。
「発見ノート」を作ろう	3	■毎日の生活の中での発見や不思議に思ったことなどを「発見ノート」に書く。 △言葉には, 考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 △考えとそれを支える理由や事例, 全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ■相手や目的を意識して, 経験したことや想像したことなどから書きたいことを選び, 集めた材料を比較したり分類したりして, 伝えたいことを明確にする。 ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして, 書き表し方を工夫すること。 ■調べたことをまとめて報告するなど, 事実やそれを基に考えたことを書く活動。	○言葉には, 考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている	○「書くこと」において, 相手や目的を意識して, 経験したことなどから書くことを選び, 集めた材料を比較したり分類したりして, 伝えたいことを明確にしている	○積極的に伝えたいことを明確にし, 学習の見通しをもって「発見ノート」を作ろうとしている。
たからものをしょうかいしよう	6	△言葉には, 考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 △相手を見て話したり聞いたりするとともに, 言葉の抑揚や強弱, 間の取り方などに注意して話すこと。 △丁寧な言葉を使うとともに, 敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 △考えとそれを支える理由や事例, 全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ◇目的を意識して, 日常生活において伝えたいことなどから話題を決め, 集めた材料を比較したり分類したりして, 話題に合うことを選ぶこと。 ◇相手を意識して, 話の中心が明確になるように理由や事例などを挙げながら, 話の構成を考えること。 ◇話の中心が伝わるように, 場面を意識して言葉の抑揚や強弱, 間の取り方などを工夫すること。 ◇必要なことを記録したり質問したりしながら聞き, 話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え, 自分の考えを持つこと。 ◇説明や報告など, 調べたことを話したり, それらを聞いたりする活動。	○考えとそれを支える理由や事例, 全体と中心など情報と情報との関係について理解している。	○「話すこと・聞くこと」において, 相手に伝わるように, 理由や事例などを挙げながら, 話の中心が明確になるように話の構成を考えている。 ○「話すこと・聞くこと」において, 話の中心や話す場面を意識して, 言葉の抑揚や強弱, 間の取り方などを工夫している	○粘り強く話の構成を考え, 今までの学習を生かして自分の宝物を紹介しようとしている。

聞いてさがそう	2	◇大事なことは何かを考えて、メモを取りながら道順の説明を聞く。 △相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。 △丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 △比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。 ◇目的を意識して、日常生活において伝えたいことなどから話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、話題に合うことがらを選ぶこと。 ◇相手を意識して、話の中心が明確になるように理由や事例などを挙げながら、話の構成を考えること。 ◇話の中心が伝わるように、場面を意識して言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。 ◇必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心をとらえるとともに、話の内容を基に自分の考えを持つこと。 ◇質問するなどして情報を集めたり、それらを発表したりする活動。	○比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。	○「話すこと・聞くこと」において、必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもっている。	○進んで必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、学習の見通しをもって情報を集めようとしている。
漢字の広場 ① 二年生で学んだ漢字 ①	2	△絵を見て想像したことをもとに、2年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 △丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。	○前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。	○「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。	○積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵を説明する文を書くようとしている。
うめぼしのはたらき	2	△主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。 △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 △比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。 □段落相互の關係に着目しながら、考えと理由、事例の關係などを叙述を基に捉えること。 □目的を意識して、中心となる語や文を見つけて内容を要約すること。 □記録や報告などの文章を読み、文章の一部を引用して、分かったことや考えたことを説明したり、意見を述べたりする活動。	○主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。 ○考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との關係について理解している。	○「読むこと」において、段落相互の關係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との關係などについて、叙述を基に捉えている。 ○「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約している。	○粘り強く、目的を意識して、中心となる語や文を見付け、学習課題に沿って要点をまとめようとしている。

めだか	10	□段落の要点に気をつけて読み、わかったことや大事なことをまとめる。 △主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 △幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 ■書こうとすることの中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の關係に注意したりして、文章の構成を考えること。 ■自分の考えとそれを支える理由や事例との關係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 □段落相互の關係に着目しながら、考えと理由、事例の關係などを叙述を基に捉えること。 □目的を意識して、中心となる語や文を見つけて内容を要約すること。 □文章などを読んで理解したことに基づいて、感想や考えを持つこと。 □文章などを読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。 ■調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。 □記録や報告などの文章を読み、文章の一部を引用して、分かったことや考えたことを説明したり、意見を述べたりする活動。 □学校図書館などを利用し、事典や図鑑などから情報を得て、分かったことなどをまとめて説明する活動。	○主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。	○「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の關係に注意したりして、文章の構成を考えている。 ○「読むこと」において、段落相互の關係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との關係などについて、叙述を基に捉えている。 ○「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約している。	○粘り強く、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約し、学習課題に沿って分かったことや大事なことをまとめようとしている。
俳句に親しむ	4	△俳句を声に出して読み、言葉のリズムにふれる。 △易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。 ■自分の考えとそれを支える理由や事例との關係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。	○易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。	○「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との關係を明確にして、書き表し方を工夫している。	○進んで易しい文語調の俳句を音読したり暗唱したりするなどし、学習の見通しをもって言葉の響きやリズムに親しもうとしている。
本で調べよう	3	△本の仕組みやつくりを知り、それをもとに知りたいことに応じた本を探して読み、必要な事柄を「読書カード」に記録する。 △知りたい情報を見つけるための方法を知り、それをもとに目的に応じた本を探して読み、必要な事柄を「読書カード」に記録する。 △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との關係について理解すること。 △比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。 △幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 □目的を意識して、中心となる語や文を見つけて内容を要約すること。 □文章などを読んで理解したことに基づいて、感想や考えを持つこと。 □記録や報告などの文章を読み、文章の一部を引用して、分かったことや考えたことを説明したり、意見を述べたりする活動。 □学校図書館などを利用し、事典や図鑑などから情報を得て、分かったことなどをまとめて説明する活動。	○比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。	○「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約している。	○積極的に、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約し、学習課題に沿って分かったことを説明しようとしている。

クラスの「生き物ブック」を作ろう	10	■図や資料を使って、生き物の特徴を比べて書く。 △主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。 △比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。 ■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。 ■書こうとすることの中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。 ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ■文章の間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えること。 ■感想や意見を伝え合い、書こうとしたことが明確になっているかなどについて、文章の内容や表現のよいところを見付けること。 ■調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。	○主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。	○「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。 ○「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。	○粘り強く文章の構成を考え、学習の見通しをもって説明する文章を書こうとしている。
漢字の広場 ② 漢字の音と訓	2	△漢字の音と訓について理解する。 △漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つこと。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くこと。 △第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 △比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。	○前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。		○積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習課題に沿って、漢字の「音」と「訓」について知り、正しく使おうとしている。
漢字の広場 ② 二年生で学んだ漢字 ②	2	△絵を見て想像したことをもとに、2年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 △丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 ■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。 ■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。	○前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。	○「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。	○積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵の中の言葉を使って文を書こうとしている。

のらねこ	9	△様子や行動, 気持ちや性格を表す語句の量を増し, 話や文章の中で使うとともに, 言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し, 語彙を豊かにすること。 △考えとそれを支える理由や事例, 全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 △幅広く読書に親しみ, 読書が, 必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 ■書こうとすることの中心を明確にし, 内容のまとまりで段落をつつたり, 段落相互の関係に注意したりして, 文章の構成を考えること。 ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして, 書き表し方を工夫すること。 □場面の移り変わりや登場人物の行動, 気持ちの変化などについて, 叙述を基に捉えること。 □場面の移り変わりと結び付けて, 登場人物の性格や気持ちの変化, 情景について具体的に思い描くこと。 □文章などを読んで理解したことに基づいて, 感想や考えを持つこと。 □文章などを読んで感じたことや考えたことを共有し, 一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。 ■詩や物語をつくるなど, 感じたことや想像したことを書く活動。 □詩や物語などを読み, 内容を説明したり, 考えたことなどを伝え合ったりする活動。	○様子や行動, 気持ちや性格を表す語句の量を増し, 言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し, 語彙を豊かにしている。	○「書くこと」において, 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして, 書き表し方を工夫している。 ○「読むこと」において, 登場人物の行動や気持ちなどについて, 叙述を基に捉えている。 ○「読むこと」において, 登場人物の気持ちの変化や性格, 情景について, 場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。 ○「読むこと」において, 登場人物の気持ちの変化や性格, 情景について, 場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。 ○「読むこと」において, 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し, 一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。	○進んで登場人物の性格について, 場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し, 学習の見通しをもって物語の感想を書こうとしている。
きせつの言葉を集めよう	1	△俳句には「季語」が読み込まれていることを知り, 季節に関する言葉を集める。 △易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして, 言葉の響きやリズムに親しむこと。 △長い間使われてきたことわざや慣用句, 故事成語などの意味を知り, 使うこと。 ■相手や目的を意識して, 経験したことや想像したことなどから書くことを選び, 集めた材料を比較したり分類したりして, 伝えたいことを明確にすること。 ■調べたことをまとめて報告するなど, 事実やそれを基に考えたことを書く活動。	○長い間使われてきたことわざや慣用句, 故事成語などの意味を知り, 使っている。	○「書くこと」において, 相手や目的を意識して, 経験したことから書くことを選び, 集めた材料を比較したり分類したりして, 伝えたいことを明確にしている	○積極的に, 長い間使われてきた季節を表す言葉の意味を知り, 学習課題に沿って季節の言葉を集めようとしている。

よく見て、話し合おう	1	◇写真をよく見て、気づいたことや考えたことについてグループで話し合う。 △言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 △相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。 △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ◇目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ◇相手を意識して、話の中心が明確になるように理由や事例などを挙げながら、話の構成を考えること。 ◇話の中心が伝わるように、場面を意識して言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。 ◇必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えを持つこと。 ◇目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめること。 ◇互いの考えを伝えるなどして、グループや学級全体で話し合う活動。	○言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている	○「話すこと・聞くこと」において、目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめている。	○進んで目的や進め方を確認し、学習の見通しをもってグループで話し合おうとしている。
取材して知らせよう インタビューをしよう	10	■◇取材メモを上手に使って、組み立てを考えながら調べたことを文章にまとめる。 △主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。 △丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ◇必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えを持つこと。⇒◎思判表A(1)エ ■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。 ■書こうとすることの中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。 ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ■文章の間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えること。 ■感想や意見を伝え合い、書こうとしたことが明確になっているかなどについて、文章の内容や表現のよいところを見付けること。 ◇質問するなどして情報を集めたり、それらを発表したりする活動。 ■調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。	○丁寧な言葉を使っているとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書いている。 ○考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。	○「話すこと・聞くこと」において、必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもっている。 ○「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。 ○「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。	○粘り強く、書く内容の中心を明確にして文章の構成を考え、学習の見通しをもって報告文を書こうとしている。

手紙を書いてつたえよう	6	■手紙の書き方を知り、目的に合わせた手紙を書く。 △丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 ■書こうとすることの中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。 ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ■文章の間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして、文や文章を整えること。 ■案内状や礼状を書くなど、伝えたいことを手紙に書く活動。	○丁寧な言葉を使っているとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書いている。	○「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。	○「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして、文や文章を整えている	○粘り強く相手や目的を意識した表現になっているかを確認め、学習の見通しをもって目的に合わせた手紙を書こうとしている。
漢字の広場 ③ 送りがな	2	△送り仮名は、漢字の読みや意味をはっきりさせるはたらきをもつことを理解し、漢字を正しく使う。 △漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つこと。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くこと。 △第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 △様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。	○漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使っているとともに、句読点を適切に打っている。			○進んで送り仮名の付け方を理解して文や文章の中で使い、学習課題に沿って、漢字を正しく使おうとしている。
漢字の広場 ③ 二年生で学んだ漢字 ③	2	△絵を見て想像したことをもとに、2年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 △丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。	○前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。	○「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。		○積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵の中の言葉を使って文を書こうとしている。

わすれられないおくりもの	9	△主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。 △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 △幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 ■書こうとすることの中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。 ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 □場面の移り変わりや登場人物の行動、気持ちの変化などについて、叙述を基に捉えること。 □場面の移り変わりと結びつけて、登場人物の性格や気持ちの変化、情景について具体的に思い描くこと。 □文章などを読んで理解したことに基づいて、感想や考えを持つこと。 □文章などを読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。 ■調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。 □詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。	○主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。	○「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。 ○「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付	○進んで登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、学習の見通しをもって、登場人物の言葉を考えようとしている。
ローマ字	4	△ローマ字に興味を持ち、ローマ字の書き方について理解し、ローマ字に親しみをもち、読めるようにする。 △漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つこと。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くこと。	○日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書いている。		○進んで、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で読んだり書いたりし、学習の見通しをもって、ローマ字に親しもうとしている。
ローマ字とコンピューター	1	△コンピューターにローマ字で入力をする際に大切なことを知り、コンピューターを活用する。 △漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つこと。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くこと。	○日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書いている。		○進んで、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で読んだり書いたりし、学習の見通しをもってコンピューターにローマ字で入力しようとしている。
世界の人につたわるように	16	◇身のまわりの絵(絵文字)を友達と紹介し合う。 △言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 △相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。 ◇目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ◇目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめること。 ◇互いの考えを伝えるなどして、グループや学級全体で話し合う活動。	○言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。	○「話すこと・聞くこと」において、目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選んでる。	○進んで集めた材料を比較したり分類したりして、学習の見通しをもって、グループで話し合おうとしている。

くらしと絵文字	7	□段落のつながりに気をつけて文章を読み、絵文字を説明する文章を書く。 △主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。 △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 △幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 ■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。 ■書くこととすることの中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。 ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 □段落相互の関係に着目しながら、考えと理由、事例の関係をなどを叙述を基に捉えること。 □目的を意識して、中心となる語や文を見つけて内容を要約すること。 □文章などを読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。 ■調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。 □記録や報告などの文章を読み、文章の一部を引用して、分かったことや考えたことを説明したり、意見を述べたりする活動。 □学校図書館などを利用し、事典や図鑑などから情報を得て、分かったことなどをまとめて説明する活動。	○主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。 ○考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。	○「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。 ○「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約している。 ○「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。	○積極的に、文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもち、学習の見通しをもって、身のまわりの絵文字について説明する文章を書こうとしている。
絵文字で表そう	7	◇司会や記録などの役割を決めて、保健室を表す絵文字についてグループですずんで話し合う。 △相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。 △丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 △比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。 ◇目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ◇相手を意識して、話の中心が明確になるように理由や事例などを挙げながら、話の構成を考えること。 ◇話の中心が伝わるように、場面を意識して言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。 ◇必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えを持つこと。 ◇目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめること。 ◇互いの考えを伝えるなどして、グループや学級全体で話し合う活動。	○比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。	○「話すこと・聞くこと」において、目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめている。	○積極的に目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たし、学習の見通しをもってグループで話し合おうとしている。

気持ちをつたえる話し方・聞き方	4	△言葉にはいろいろな意味がこめられることを知り、気持ちが伝わる話し方・聞き方について考える。 △言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 △相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。 ◇相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。 ◇話の中心が伝わるように、場面を意識して言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。 ◇互いの考えを伝えるなどして、グループや学級全体で話し合う活動。	○言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。	○「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるように話の構成を考えている。	○進んで、言葉には考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付こうとし、見通しをもって、気持ちを伝えるための話し方・聞き方について考えようとしている。
漢字の広場 ④ へんとつくり	2	△へん、つくりなどの漢字の構成についての知識を得て、漢字を正しく読んだり書いたりする。 △第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 △漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解すること。	○漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解している。		○進んで、漢字がへんやつくりなどから構成されていることについて理解し、学習の見通しをもって、漢字を正しく読んだり書いたりしようとしている。
漢字の広場 ④ 二年生で学んだ漢字 ④	2	△絵を見て想像したことをもとに、2年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 △丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 ■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。 ■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。	○前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。	○「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。	○積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵の中の言葉を使って文を書くようとしている。
モチモチの木	8	△様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。 △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 △幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 ■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。 ■書こうとすることの中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。 ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 □場面の移り変わりや登場人物の行動、気持ちの変化などについて、叙述を基に捉えること。 □場面の移り変わりと結びつけて、登場人物の性格や気持ちの変化、情景について具体的に思い描くこと。 □文章などを読んで理解したことに基づいて、感想や考えを持つこと。	○様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。 ○幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。	○「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。 ○「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。 ○「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。	○積極的に、文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもち、学習の見通しをもって物語のおもしろいところを紹介しようとしている。

「おすすめ図書カード」を作ろう	6	△自ら作品を選び、自分で課題を決めて読書をする。 △「おすすめ図書カード」を作り、本を紹介し合い、さまざまな本を読む。 △相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。 △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 △幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 ■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。 ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 □文章などを読んで理解したことに基づいて、感想や考えを持つこと。 □文章などを読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。 ■調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。 □記録や報告などの文章を読み、文章の一部を引用して、分かったことや考えたことを説明したり、意見を述べたりする活動。 □学校図書館などを利用し、事典や図鑑などから情報を得て、分かったことなどをまとめて説明する活動。	○相手を見て話したり聞いたりしているとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。 ○幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。	○「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。 ○「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。 ○「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。	○積極的に文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、学習の見通しをもって、「おすすめ図書カード」で本を紹介し合おうとしている。
こそあど言葉	1	△指示語のはたらきを理解し、適切に使う。 △主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。	○主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。		○進んで指示する語句の役割を理解し、学習課題に沿って、指示する語句を適切に使おうとしている。
はっとしたことを詩に書こう	5	■身近なこと、想像したことをもとに、表現を工夫して詩を書く。 △言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 △様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。 ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ■文章の間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えること。 ■書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 ■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。	○言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。 ○様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、文章の中で使っているとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。	○「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。	○積極的に書き表し方を工夫し、学習の見通しをもって詩を書こうとしている。

ことわざ・慣用句	4	△ことわざや慣用句の意味を知り、ふだんの生活の中で使うことができるように、カードを作る。 △長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使うこと。 ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ■調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。	○長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使っている。	○「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。	○積極的に、長い間使われてきたことわざや慣用句の意味を知り、学習の見直しをもってカードにまとめようとしている。
詩を楽しもう 夕日がせなかをおしてくる いちばんぼし	2	□音読したり、イメージを広げたりして、詩の世界を楽しむ。 △相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。 △文章全体の内容や構成の大体を意識しながら音読すること。 △幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 □登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりや結び付けて具体的に想像すること。 □文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。 □詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。	○文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。	○「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移りわりと結び付けて具体的に想像している。 ○「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。	○進んで、情景について具体的に想像し、学習の見直しをもって音読したりイメージを広げたりしようとしている。
町の行事について発表しよう	7	△相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。 △丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 △比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。 ◇目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ◇相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。 ◇話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。 ◇必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えを持つこと。 ◇質問するなどして情報を集めたり、それらを発表したりする活動。	○相手を見て話したり聞いたりしているとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。 ○比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。	○「話すこと・聞くこと」において、話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫している。	○進んで話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫し、学習の見直しをもって、資料を使って発表しようとしている。
文の組み立て	2	△主語と述語や修飾語との関係を理解して、文の組み立てを捉える。 △様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。 △主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。	○主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。		○進んで主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係について理解し、学習の見直しをもって、文の組み立てを捉えようとしている。

漢字の広場 ⑤ 漢字の組み立て	2	△かんむり・あしなどの漢字の構成についての知識を得、漢字を正しく読んだり書いたりする。 △第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 △漢字が、へんやづくりなどから構成されていることについて理解すること。	○漢字が、へんやづくりなどから構成されていることについて理解している。		○進んで、漢字がへんやづくりなどから構成されていることについて理解し、学習の見通しをもって、漢字を正しく読んだり書いたりしようとしている。
漢字の広場 ⑤ 二年生で学んだ漢字 ⑤	2	△絵を見て想像したことをもとに、2年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 △丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 ■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。 ■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。	○前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。	○「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。	○積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵の中の言葉を使って文を書くようとしている。
川をさかのぼる知恵	7	△主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。 △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 △幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 □段落相互の関係に着目しながら、考えと理由、事例の関係などを叙述を基に捉えること。 □目的を意識して、中心となる語や文を見つけて内容を要約すること。 □文章などを読んで理解したことに基づいて、感想や考えを持つこと。 □文章などを読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。 ■収集した資料を効果的に使い、説明する文章などを書くこと。 □記録や報告などの文章を読み、文章の一部を引用して、分かったことや考えたことを説明したり、意見を述べたりする活動。	○主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。 ○考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。	○「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。 ○「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。 ○「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。	○進んで、文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもち、学習の見通しをもって友達と感想を交流しようとしている。
十二支と月のよび名	1	△暮らしの中に今なお使われている昔からの言い方について知り、さまざまな言葉を探して感じたことを書く。 △長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使うこと。	○長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使っている。		○積極的に、長い間使われてきた十二支や月の呼び名を知り、学習の見通しをもって、今の暮らしの中に残る昔からの言い方を見つけようとしている。

強く心にのこっていることを	8	△様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。 △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。 ■書こうとすることの中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。 ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ■文章の間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えること。 ■感想や意見を伝え合い、書こうとしたことが明確になっているかなどについて、文章の内容や表現のよいところを見付けること。 ■調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。	○様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、文章の中で使っているとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。 ○考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。	○「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。 ○「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。 ○「書くこと」において、書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。	○粘り強く間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして文や文章を整え、学習の見通しをもって、思い出に残っているできごとについて文章を書く。
漢字の広場 ⑥ 二つの漢字の組み合わせ	2	△漢字二字の言葉の構成について、問題を解きながら確認し、二つの漢字のつながり方を考える。 △第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 △比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。	○前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。		○積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、漢字二字の言葉の構成について考えようとしている。
漢字の広場 ⑥ 二年生で学んだ漢字 ⑥	2	△絵を見て想像したことをもとに、2年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 △主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。 △丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 ■間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えること。 ■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動	○前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。	○「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。	○積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵の中の言葉を使って文を書くようとしている

おにたのぼうし	10	△様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。 △文章全体の内容や構成の大体を意識しながら音読すること。 △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 △幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 ■書こうとすることの中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。 ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 □場面の移り変わりや登場人物の行動、気持ちの変化などについて、叙述を基に捉えること。 □場面の移り変わりと結びつけて、登場人物の性格や気持ちの変化、情景について具体的に思い描くこと □文章などを読んで理解したことに基づいて、感想や考えを持つこと。 □文章などを読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。 ■案内状や礼状を書くなど、伝えたいことを手紙に書く活動。 □詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。	○様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。	○「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。 ○「読むこと」において、文章をを読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。 ○「読むこと」において、文章をを読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。	○進んで文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもち、学習の見直しをもって、登場人物に宛てて手紙を書くようにしている。
国語の学習 これまで これから	2	◇一年間の国語学習を振り返ったり、これからの学習について考えたりして、すすんで学習できるようにする。 △相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。 ◇目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ◇質問するなどして情報を集めたり、それらを発表したりする活動。 ■調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。	○相手を見て話したり聞いたりしているとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。	○「話すこと・聞くこと」において、目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選んでいく。 ○「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。	○積極的に伝え合うために必要な事柄を選び、今までの学習を生かして、1年間の国語の学習を振り返ったり次年への希望を話し合ったりしようとしている。

学校名:江戸川区立南葛西小学校

教科	国語	学年	第4学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			識・能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
わたしは、だあれ	2	◇「自己紹介ビンゴゲーム」を通して、自身のことを紹介し合う。 △言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 △相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。 ◇目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ◇相手を意識して、話の中心が明確になるように理由や事例などを挙げながら、話の構成を考えること。 ◇話の中心が伝わるように、場面を意識して言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。 ◇必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつこと。 ◇質問するなどして情報を集めたり、それらを発表したりする活動。	○言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。	○「話すこと・聞くこと」において、必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもっている。	○積極的に必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、学習の見通しをもって、自分のカードに書いてある名前をあてようとしている。
春のうた あり	2	□◇声に出して読んだり、共通点や相違点に気をつけて話したり聞いたりすることを楽しみ、国語学習への意欲をもつ。 □言葉の響きに気をつけながら、工夫して音読する。 △相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。 △文章全体の内容や構成の大体を意識しながら音読すること。 △幅広く読書に親しみ、読書が、必要な識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 □場面の移り変わりや登場人物の行動、気持ちの変化などについて、叙述を基に捉えること。 □登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。 □詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。	○文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。	○「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。	○進んで、登場人物の気持ちの変化や情景について具体的に想像し、学習の見通しをもって音読したりイメージを広げたりしようとしている。
白いぼうし	10	△様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。 △文章全体の内容や構成の大体を意識しながら音読すること。 △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 △幅広く読書に親しみ、読書が、必要な識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 思判表B ■書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 思判表B □場面の移り変わりや登場人物の行動、気持ちの変化などについて、叙述を基に捉えること。 思判表C □登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。 思判表C	○様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。	○「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。 ○「読むこと」において、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。 ○「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。	○進んで登場人物の気持ちや性格、情景について具体的に想像し、今までの学習を生かして、登場人物になったつもりで日記を書こうとしている。

びったりの言葉、見つけよう	4	■心が動いたできごとを、短い文章で表現する。 △言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 △漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つこと。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くこと。 △様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。 ■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。 思判表B ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 思判表B ■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。	○言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。 ○漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使っているとともに、句読点を適切に打っている。	○「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。	○進んで経験したことや想像したことなどから書くことを選び、学習の見通しをもって、心が動いたできごとを短い文章で表現しようとしている。
漢字の広場 ① 漢字の部首	2	△漢字の部首について、漢字を覚えたり使ったりするときに役立てる。 △第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 △漢字が、へんやづくりなどから構成されていることについて理解すること。	○漢字が、へんやづくりなどから構成されていることについて理解している。		○進んで、漢字がへんやづくりなどから構成されていることについて理解し、学習の見通しをもって、漢字を覚えたり使ったりするときに役立てようとしている。
漢字の広場 ① 三年生で学んだ漢字 ①	2	△絵を見て想像したことをもとに、3年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 △丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 ■書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 ■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。	○前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。	○「書くこと」において、書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。	○積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵の中の言葉を使って文を書こうとしている。

ぞうの重さを量る	2	□象の重さを量るという問題をつかむ過程や解決する過程の考えの筋道を、叙述をおさえながら読む。 △主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。 △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 △比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。 □段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えること。 □目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること。 □記録や報告などの文章を読み、分かったことや考えたことを、本文を引用しながら説明したり意見を述べたりする活動。	○主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。 ○考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。	○「読むこと」において、段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。	○粘り強く、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて叙述を基に捉え、学習の見通しをもって、考える筋道をつかもうとしている。
花を見つける手がかり	10	□「もんしろちょうは何を手がかりに花を見つけるか」という問題を解明していく一つの実験の結果とそこから引き出される結論、実験を繰り返していく考えの筋道などを、叙述をおさえながら読む。 △主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。 △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 △比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。 △幅広く読書に親しみ、読書が、必要な識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 ■書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。 ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 □段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えること。 □目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること。 □文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。 □文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。	○主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。 ○考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。	○「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。 ○「読むこと」において、段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている ○「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約している。	○粘り強く、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて叙述を基に捉え、学習の見通しをもって、結果と結論のつながりを捉えようとしている。

分類をもとに本を見つけよう	4	△地域の図書館へ行き、「日本十進分類法」を利用して本を探して読んだり、図書館の分類の仕方を確かめたりする。 △「日本十進分類法」のしくみをり、本を探すときに役立てる。 △「日本十進分類法」のしくみをり、分類記号を手がかりに本を探して読む。 △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 △比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。 △幅広く読書に親しみ、読書が、必要な識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 □目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること。 □文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。 □記録や報告などの文章を読み、分かったことや考えたことを、本文を引用しながら説明したり意見を述べたりする活動。 □学校図書館などを利用し、事典や図鑑などから情報を得て、分かったことなどをまとめて説明する活動。	○考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。 ○比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。 ○幅広く読書に親しみ、読書が、必要な識や情報を得ることに役立つことに気付いている。	○「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約している。	○進んで比較や分類の仕方を理解し、学習の見通しをもって、分類記号を手がかりに本を探して読もうとしている。
漢字辞典の引き方	2	△漢字辞典の引き方を理解し、活用する。 △第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 △比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。 △漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解すること。	○比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。		○積極的に辞書や事典の使い方を理解し、学習の見通しをもって漢字辞典を活用しようとしている。
リーフレットでらせよう	10	△漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つこと。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くこと。 △主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。カ △丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 △比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。 ■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。 ■書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。 ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ■間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えること。 ■書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 ■調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。	○漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使っている。	○「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。 ○「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。 ○「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。	○積極的に、書く内容の中心を明確にし、文章の構成を考え、学習の見通しをもってリーフレットの組み立てを考えようとしている。

短歌の世界	4	△短歌を声に出して読み、言葉のリズムにふれる。 △易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親むこと。 △幅広く読書に親しみ、読書が、必要な識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。	○易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。	○「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。	○進んで易しい文語調の短歌を音読したり暗唱したりするなどし、学習の見通しをもって、言葉のリズムを楽しんだり様子や気持ちを想像したりしようとしている。
漢字の広場 ② 漢字の音を表す部分	2	△形声文字における部首と音符について、漢字を覚えたり使ったりするときに役立てる。 △第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 △比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。 △漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解すること。	○漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解している。		○進んで漢字がへんやつくりなどから構成されていることについて理解し、学習課題に沿って、「音を表す部分」を漢字を覚えたり使ったりすることに役立てようとしている。
漢字の広場 ② 三年生で学んだ漢字 ②	2	△絵を見て想像したことをもとに、3年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 △丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動	○前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。	○「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。	○積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵の中の言葉を使って文を書こうとしている。
そろそろ(落語)	10	△相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。 △主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。 △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 △幅広く読書に親しみ、読書が、必要な識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 ◇話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。 □場面の移り変わりや登場人物の行動、気持ちの変化などについて、叙述を基に捉えること。 □登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。 □文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。 ◇説明や報告など調べたことを話したり、それらを聞いたりする活動。 □詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。	○相手を見て話したり聞いたりしているとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。	○「話すこと・聞くこと」において、話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫している。 ○「読むこと」において、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。 ○「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。	○進んで登場人物の気持ちの変化や性格、情景について具体的に想像し、学習の見通しをもって、落語を音読したり演じたりしようとしている。

「夏の思い出」記者になろう	1	◇話し手がどんなことを伝えたいのかを考えながら、質問をする。 △言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 △相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。 △丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 ◇目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ◇相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。 ◇話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。 ◇必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えを持つこと。 ◇質問するなどして情報を集めたり、それらを発表したりする活動。	○言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。	○「話すこと・聞くこと」において、必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもっている。	○積極的に必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、学習の見通しをもって、相手の話を引き出す質問をしようとしている。
写真をもとに話そう	6	◇伝えたいことをはっきりさせて、理由や事例などをあげながら筋道を立てて話す。 △相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。 △丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ◇目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ◇相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。 ◇話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。 ◇必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えを持つこと。 ◇目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめること。 ◇説明や報告など調べたことを話したり、それらを聞いたりする活動。	○相手を見て話したり聞いたりしているとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。	○「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるように話の構成を考えている。	○粘り強く、理由や事例などを挙げながら話の中心が明確になるように構成を考え、学習の見通しをもって、写真から読み取ったことを話そうとしている。

新聞を作ろう	5	■割り付けを工夫して、わかりやすい紙面の新聞を作る。 △漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つこと。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くこと。 △丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。 ■書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。 ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ■間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えること。 ■書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 ■調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。	○漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使っている。 ○考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。	○「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。 ○「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。	○粘り強く間違いを正したり文章を整えたりし、学習の見通しをもって新聞を作ろうとしている。
漢字の広場 ③ 送りがなのつけ方	2	△送り仮名は、漢字の読みや意味をはっきりさせるはたらきをもつことを理解し、漢字を正しく使う。 △漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つこと。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くこと。 △第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。	○漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使っている。 ○考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。		○進んで送り仮名の付け方を理解して文や文章の中で使い、学習課題に沿って、漢字を正しく使おうとしている。
都道府県名に用いる漢字	1	△都道府県名に用いる漢字などを使って文を書く。 △第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 △丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 ■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。 思判表B ■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。	○前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。	○「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。	○積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習課題に沿って、都道府県名を覚えたり書いたりしようとしている。

漢字の広場 ③ 三年生で学んだ漢字 ③	2	△絵を見て想像したことをもとに、3年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 △丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。	○前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。	○「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。	○積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵の中の言葉を使って文を書こうとしている。
一つの花	9	△様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。 △主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。 △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 △幅広く読書に親しみ、読書が、必要な識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 ■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。 ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ■書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 □場面の移り変わりや登場人物の行動、気持ちの変化などについて、叙述を基に捉えること。 □登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。 □文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。 □文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。	○様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。 ○考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。	○「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。 ○「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。 ○「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。	○積極的に、文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもち、学習の見通しをもって、心に残った場面をもとに感想文を書こうとしている。
いろいろな手紙を書こう	2	■手紙の書き方をり、送る相手や伝える目的に合わせて手紙を書く。 △言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 △漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つこと。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くこと。 △様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。 △丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 思判表B ■間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えること。 ■行事の案内やお礼の文章を書くなど、伝えたいことを手紙に書く活動。	○丁寧な言葉を使っているとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書いている。	○「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。	○粘り強く間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめ、学習の見通しをもって、送る相手や伝える目的に合わせた手紙を書こうとしている。

修飾語	2	△文の中での修飾語のはたらきを理解する。 △様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。 △主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。	○主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。		○進んで修飾と被修飾との関係について理解し、学習の見通しをもって、修飾語を見つけたり、修飾語の種類を見分けたりしようとしている。
「ショートショート」を書こう	6	△言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 △漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つこと。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くこと。 △主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。 ■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。 ■書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。 ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ■間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えること。 ■書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 ■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。	○漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使っているとともに、句読点を適切に打っている。	○「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。	○積極的に、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりし、学習の見通しをもって「ショートショート」を書こうとしている。
「月」のつく言葉	1	△昔から「月」に対してさまざまな呼称があったことをり、「月」に関係する言葉を集める。 △比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。 △易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。 ■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。 ■記録や報告などの文章を読み、分かったことや考えたことを、本文を引用しながら説明したり意見を述べたりする活動。	○易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。	○「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。	○進んで「月」に関わる言葉を音読するなどして言葉の響きやリズムに親しみ、学習の見通しをもって「月」に関係する言葉を集めようとしている。

ごんぎつね	8	△様子や行動, 気持ちや性格を表す語句の量を増し, 話や文章の中で使うとともに, 言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し, 語彙を豊かにすること。 △考えとそれを支える理由や事例, 全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして, 書き表し方を工夫すること。 □場面の移り変わりや登場人物の行動, 気持ちの変化などについて, 叙述を基に捉えること。 □登場人物の気持ちの変化や性格, 情景について, 場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。 □文章を読んで理解したことに基づいて, 感想や考えをもつこと。 思判表C □文章を読んで感じたことや考えたことを共有し, 一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。 □詩や物語などを読み, 内容を説明したり, 考えたことなどを伝え合ったりする活動。	○様子や行動, 気持ちや性格を表す語句の量を増し, 言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し, 語彙を豊かにしている。	○「書くこと」において, 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして, 書き表し方を工夫している。 ○「読むこと」において, 登場人物の気持ちの変化や性格, 情景について, 場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。 ○「読むこと」において, 文章を読んで理解したことに基づいて, 感想や考えをもっている。	○積極的に, 登場人物の気持ちの変化や性格, 情景について, 場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し, 学習の見通しをもって物語のポスターを作ろうとしている。
「読書発表会」をしよう	5	△紹介したい本を何冊か選び, 「読書発表会」で発表する。 △紹介したい本を何冊か選び, 「読書発表会」をし, 読書の幅を広げる。 △主語と述語との関係, 修飾と被修飾との関係, 指示する語句と接続する語句の役割, 段落の役割について理解すること。 △文章全体の内容や構成の大体を意識しながら音読すること。 △考えとそれを支える理由や事例, 全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 △比較や分類の仕方, 必要な語句などの書き留め方, 引用の仕方や出典の示し方, 辞書や事典の使い方を理解し使うこと。 △幅広く読書に親しみ, 読書が, 必要な識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 □登場人物の気持ちの変化や性格, 情景について, 場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。 □文章を読んで理解したことに基づいて, 感想や考えをもつこと。 □文章を読んで感じたことや考えたことを共有し, 一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。 □詩や物語などを読み, 内容を説明したり, 考えたことなどを伝え合ったりする活動。 □学校図書館などを利用し, 事典や図鑑などから情報を得て, 分かったことなどをまとめて説明する活動。	○比較や分類の仕方, 必要な語句などの書き留め方, 引用の仕方や出典の示し方, 辞書や事典の使い方を理解し使っている。 ○幅広く読書に親しみ, 読書が, 必要な識や情報を得ることに役立つことに気付いている。	○「読むこと」において, 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し, 一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。	○積極的に文章を読んで感じたことや考えたことを共有し, 学習の見通しをもって, 「読書発表会」で本を紹介しようとしている。

「読書発表会」をしよう	5	△紹介したい本を何冊か選び、「読書発表会」で発表する。 △紹介したい本を何冊か選び、「読書発表会」をし、読書の幅を広げる。 △主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。 △文章全体の内容や構成の大体を意識しながら音読すること。 △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 △比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。 △幅広く読書に親しみ、読書が、必要な識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 □登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像すること。 思判表C □文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。 □文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。 □詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。 □学校図書館などを利用し、事典や図鑑などから情報を得て、分かったことなどをまとめて説明する活動。	○比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。 ○幅広く読書に親しみ、読書が、必要な識や情報を得ることに役立つことに気付いている。	○「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。	○積極的に文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、学習の見通しをもって、「読書発表会」で本を紹介しようとしている。
言葉が表す感じ、言葉から受ける感じ	4	△言葉や音が表すメーじや、メーじに即した言葉を考えたりすることによって、言葉の特性について考える。 △言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 △相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。 △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ◇相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。 ◇話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。 ◇必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えを持つこと。 ◇互いの考えを伝えるなどして、グループや学級全体で話し合う活動。	○言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。	○「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるように話の構成を考えている。	○進んで、言葉には考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付こうとし、学習課題に沿って、言葉がもつメーじについて考えようとしている。
新スポーツを考えよう	8	△相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。 △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 △比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。 ◇目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 思判表A ◇相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。 思判表A ◇話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。 思判表A ◇必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えを持つこと。 思判表A ◇目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめている。	○考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。 ○比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。	○「話すこと・聞くこと」において、目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめている。	○積極的に目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たし、学習の見通しをもってラズで話し合おうとしている。

漢字の広場 ④ いろいろな意味を表す漢字	2	△一つの漢字には、複数の意味がある場合が多いことを理解する。 △第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 △比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。	○前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。		○積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習課題に沿って、漢字がもつ複数の意味について考えようとしている。
漢字の広場 ④ 三年生で学んだ漢字 ④	2	△絵を見て想像したことをもとに、3年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 △丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 ■書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 思判表B ■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。	○前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。	○「書くこと」において、書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。	○積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵の中の言葉を使って文を書こうとしている。
ミガメの命をつなぐ	9	△主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。 △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 △比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。 △幅広く読書に親しみ、読書が、必要な識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 ■書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。 ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ■書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 □段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えること。 □目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること。 □文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。 □文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。	○考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。 ○比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。	○「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。 ○「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約している。 ○「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。	○積極的に、目的を意識して中心となる語や文を見付けて要約し、学習の見通しをもって、本教材の紹介文を書こうとしている。

「不思議ずかん」を作ろう	6	△漢字と仮名を用いた表記, 送り仮名の付け方, 改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに, 句読点を適切に打つこと。また, 第3学年においては, 日常使われている簡単な単語について, ローマ字で表記されたものを読み, ローマ字で書くこと。 △考えとそれを支える理由や事例, 全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 △比較や分類の仕方, 必要な語句などの書き留め方, 引用の仕方や出典の示し方, 辞書や事典の使い方を理解し使うこと。 ■相手や目的を意識して, 経験したことや想像したことなどから書くことを選び, 集めた材料を比較したり分類したりして, 伝えたいことを明確にすること。 ■書く内容の中心を明確にし, 内容のまとまりで段落をつくったり, 段落相互の関係に注意したりして, 文章の構成を考えること。 ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして, 書き表し方を工夫すること。 ■間違いを正したり, 相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして, 文や文章を整えること。 ■書こうとしたことが明確になっているかなど, 文章に対する感想や意見を伝え合い, 自分の文章のよいところを見付けすること。 ■調べたことをまとめて報告するなど, 事実やそれを基に考えたことを書く活動。	○比較や分類の仕方, 必要な語句などの書き留め方, 引用の仕方や出典の示し方, 辞書や事典の使い方を理解し使っている。	○「書くこと」において, 相手や目的を意識して, 経験したことから書くことを選び, 集めた材料を比較したり分類したりして, 伝えたいことを明確にしている。 ○「書くこと」において, 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして, 書き表し方を工夫している。 ○「書くこと」において, 間違いを正したり, 相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして, 文や文章を整えている。	○積極的に, 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして書き表し方を工夫し, 学習の見通しをもって「不思議ずかん」を作ろうとしている。
故事成語	4	△故事成語の意味をり, 友達に紹介するためのカードを作る。 △長い間使われてきたことわざや慣用語, 故事成語などの意味をり, 使うこと。 ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして, 書き表し方を工夫すること。 ■調べたことをまとめて報告するなど, 事実やそれを基に考えたことを書く活動。	○長い間使われてきたことわざや慣用語, 故事成語などの意味をり, 使っている。	○「書くこと」において, 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして, 書き表し方を工夫している。	○積極的に, 長い間使われてきた故事成語の意味をり, 学習の見通しをもってカードにまとめようとしている。
詩を楽しもう いろいろな詩 おおきな木 とびばこ だんだん	2	□さまざまな形の作品を読みながら, 詩の世界を楽しむ。 △文章全体の内容や構成の大体を意識しながら音読すること。 △幅広く読書に親しみ, 読書が, 必要な識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 □登場人物の気持ちの変化や性格, 情景について, 場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。 □文章を読んで理解したことに基づいて, 感想や考えをもつこと。 思判表C □文章を読んで感じたことや考えたことを共有し, 一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。 □詩や物語などを読み, 内容を説明したり, 考えたことなどを伝え合ったりする活動。	○文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。	○「読むこと」において, 登場人物の気持ちの変化や性格, 情景について, 場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。 ○「読むこと」において, 文章を読んで理解したことに基づいて, 感想や考えをもっている。	○進んで, 詩を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもち, 学習の見通しをもって発表し合おうとしている。
漢字の広場 ⑤ 熟語のでき方	2	△二つの漢字を組み合わせた熟語の構成について, 問題を解きながら確認し, 二つの漢字のつながり方を考える。 △第3学年及び第4学年の各学年においては, 学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また, 当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き, 文や文章の中で使うとともに, 当該学年に配当されている漢字を漸次書き, 文や文章の中で使うこと。 △比較や分類の仕方, 必要な語句などの書き留め方, 引用の仕方や出典の示し方, 辞書や事典の使い方を理解し使うこと。	○前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。		○積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い, 学習課題に沿って, 二つの漢字を組み合わせた熟語の構成について考えようとしている。

漢字の広場 ⑤ 三年生で学んだ漢字 ⑤	2	△絵を見て想像したことをもとに、3年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 △丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 ■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。 ■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。	○前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。	○「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。	○積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵の中の言葉を使って文を書こうとしている。
身のまわりの「便利」なものを考えよう	1	◇身のまわりの道具や設備などから「便利」なものを選び、使いやすくなる工夫を考えて話し合う。 △言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 ◇目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ◇目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめること。 ◇互いの考えを伝えるなどして、グループや学級全体で話し合う活動。	○言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。	○「話すこと・聞くこと」において、目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。	○進んで、目的を意識して日常生活の中から集めた材料を比較したり分類したりし、学習の見通しをもって、ラス全体やグループで話し合おうとしている。
「便利」ということ	6	□「便利」とはどういうことかを考えながら読み、自分の経験と照らし合わせながら考えをまとめる。 △主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。 △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 △比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。 △幅広く読書に親しみ、読書が、必要な識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 ■書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。 ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ■書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 □段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えること。 □目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること。 □文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。 □文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。 ■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 □記録や報告などの文章を読み、分かったことや考えたことを、本文を引用しながら説明したり意見を述べたりする活動。 □学校図書館などを利用し、事典や図鑑などから情報を得て、分かったことなどをまとめて説明する活動。	○考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。 ○比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。 ○幅広く読書に親しみ、読書が、必要な識や情報を得ることに役立つことに気付いている。	○「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。 ○「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。 ○「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。	○積極的に、文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもち、学習の見通しをもって、「便利」について考えたことを文章にまとめようとしている。

調べてわかったことを発表しよう	2	◇調べたことについて、写真や図、表やグラフなどを使って説明したり、話の中心に気をつけて聞いたりする。 △丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 △比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。 ◇目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ◇相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。 ◇話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。 ◇必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えを持つこと。 ◇質問するなどして情報を集めたり、それらを発表したりする活動。	○比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。	○「話すこと・聞くこと」において、話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫している。	○積極的に、話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫し、見通しをもって調べたことを発表し合おうとしている。
点(,)を打つところ	2	△読点のはたらきを理解して、正しく使い分ける。 △漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つこと。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くこと。 △主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。	○漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使っているとともに、句読点を適切に打っている。		○進んで句読点のはたらきを理解し、学習課題に沿って、文や文章の中で適切に使おうとしている。
自分の成長をふり返って	9	△漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つこと。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くこと。 △主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。 △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。 ■書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。 ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ■間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えること。 ■書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 ■調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動	○漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使っているとともに、句読点を適切に打っている。 ○主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。	○「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。 ○「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。 ○「書くこと」において、書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。	○積極的に、書こうとしたことが明確になっているかなど文章に対する感想や意見を伝え合い、学習の見通しをもって、よりよい表現を選んで文章を書こうとしている。

雪	1	△「雪」を扱った言語表現を集める。 △考えとそれを支える理由や事例, 全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 △長い間使われてきたことわざや慣用句, 故事成語などの意味をり, 使うこと。 ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして, 書き表し方を工夫すること。 ■調べたことをまとめて報告するなど, 事実やそれを基に考えたことを書く活動。	○長い間使われてきたことわざや慣用句, 故事成語などの意味をり, 使っている。	○「書くこと」において, 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして, 書き表し方を工夫している。	○進んで, 長い間使われてきた「雪」に関わる言葉の意味をろうとし, 学習の見通しをもって「雪」に関する詩歌や言葉を集めようとしている。
漢字の広場 ⑥ 同じ読み方の漢字の使い分け	2	△異字同訓や同音異義語の使い分けについて意識をもって, 漢字を読んだり書いたりする。 △漢字と仮名を用いた表記, 送り仮名の付け方, 改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに, 句読点を適切に打つこと。また, 第3学年においては, 日常使われている簡単な単語について, ローマ字で表記されたものを読み, ローマ字で書くこと。 △第3学年及び第4学年の各学年においては, 学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また, 当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き, 文や文章の中で使うとともに, 当該学年に配当されている漢字を漸次書き, 文や文章の中で使うこと。 △比較や分類の仕方, 必要な語句などの書き留め方, 引用の仕方や出典の示し方, 辞書や事典の使い方を理解し使うこと。	○漢字と仮名を用いた表記, 送り仮名の付け方, 改行の仕方を理解して文や文章の中で使っているとともに, 句読点を適切に打っている。		○進んで同じ読み方の漢字の使い分けを理解し, 学習課題に沿って, 文や文章の中で正しく使おうとしている。
漢字の広場 ⑥ 三年生で学んだ漢字 ⑥	2	△絵を見て想像したことをもとに, 3年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △第3学年及び第4学年の各学年においては, 学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また, 当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き, 文や文章の中で使うとともに, 当該学年に配当されている漢字を漸次書き, 文や文章の中で使うこと。 △丁寧な言葉を使うとともに, 敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 ■書く内容の中心を明確にし, 内容のまとまりで段落をつくったり, 段落相互の関係に注意したりして, 文章の構成を考えること。 ■詩や物語をつくるなど, 感じたことや想像したことを書く活動。	○前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。	○「書くこと」において, 書く内容の中心を明確にし, 内容のまとまりで段落をつくったり, 段落相互の関係に注意したりして, 文章の構成を考えている。	○積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い, 学習課題に沿って, お話の一場面を書こうとしている。

木竜うるし(人形げき)	8	△相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。 △文章全体の内容や構成の大体を意識しながら音読すること。 △幅広く読書に親しみ、読書が、必要な識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 ■書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。 ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ■書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 □場面の移り変わりや登場人物の行動、気持ちの変化などについて、叙述を基に捉えること。 □登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。 □文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。 □文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。 ■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 □詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。	○相手を見て話したり聞いたりしているとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。	○「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。 ○「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。 ○「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。	○積極的に、文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもち、学習の見通しをもって、脚本を物語のように書きかえようとしている。
国語の学習 これまで これから	2	◇一年間の国語学習を振り返ったり、これからの学習について考えたりして、すすんで学習できるようにする。 △相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。 △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ◇目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ◇話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。 ■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。 ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ◇説明や報告など調べたことを話したり、それらを聞いたりする活動。 ■記録や報告などの文章を読み、分かったことや考えたことを、本文を引用しながら説明したり意見を述べたりする活動。	○相手を見て話したり聞いたりしているとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。	○「話すこと・聞くこと」において、話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫している。 ○「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。	○進んで話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫し、今までの学習を生かして、1年間の国語の学習を振り返ったり次年への希望を話し合ったりしようとしている。

教科	国語	学年	第5学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
わたしは木	2	◇「自己紹介ビンゴゲーム」を通して、自身のことを紹介し合う。 △言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 △相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。 ◇目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ◇相手を意識して、話の中心が明確になるように理由や事例などを挙げながら、話の構成を考えること。 ◇話の中心が伝わるように、場面を意識して言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。 ◇必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつこと。 ◇質問するなどして情報を集めたり、それらを発表したりする活動。	○言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付いている。	○「話すこと・聞くこと」において、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。	○進んで目的や意図に応じて、話題を決め、学習の見通しをもって必要な情報を集め、友達の言葉や動作を受けとめようとしている。
水平線	1	□目や耳で捉えた世界の感じ方を想像しながら詩を読む。 △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 △比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。 △文章を音読したり朗読したりすること。 □登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。 □人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。 □文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。 □文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。 □詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。	○比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。 ○文章を音読したり朗読したりしている。	○「読むこと」において、詩の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。	○進んで詩の目や耳で捉えた世界の感じ方を想像し、学習の見通しをもって言葉の響きに気をつけながら、音読しようとしている。
いつか、大切なところ	8	△比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。 △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 △文章を音読したり朗読したりすること。 ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 □登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。 □人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。 □文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。 □文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。	○比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。	○「読むこと」において、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えている。 ○「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。	○進んで物語の全体像を具体的に想像し、学習の見通しをもって登場人物の心情の移り変わりを考えながら読もうとしている。

新聞を読もう	4	□新聞の仕組みを知り、それをもとに同じできごとを扱った新聞記事を読み比べたり、内容や見出し、写真などについて気づいたことを発表し合ったりする。 △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 △情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。 ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 □事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。 □目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。 □文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。 □文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。 ■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。 □説明や解説などの文章を比較するなどして読み、分かったことや考えたことを、話し合ったり文章にまとめたりする活動。 □学校図書館などを利用し、複数の本や新聞などを活用して、調べたり考えたりしたことを報告する活動。	○情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。	○「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。	○進んで新聞の仕組みを知り、今までの学習を生かして新聞記事を読み比べたり、内容や見出し、写真などについて考えたことを話し合おうとしている。
「情報ノート」を作ろう	3	■興味をもったり、疑問に思ったりしたことについて、情報を集めて「情報ノート」を作る。 △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 △原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。 ■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。 ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ■引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。	○原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。	○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。	○積極的に文章の種類とその特徴について理解し、学習課題に沿って感じたり考えたりしたことについて情報を集めて「情報ノート」を作ろうとしている。

漢字の広場 ① 漢字学習ノート	1	△新しく学ぶ漢字や既習の漢字を取り立て、音訓・意味・使い方などを調べて漢字学習ノートを作る。 △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 △第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 △語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き、共通語と方言との違いを理解すること。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。	○文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けられているとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書いている。 ○前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。		○積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習の見通しをもって「漢字学習ノート」を作ろうとしている。
漢字の広場 ① 四年生で学んだ漢字 ①	1	△絵を見て想像したことをもとに、4年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 △第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ■筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。 ■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。	○前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。	○「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。	○積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵を説明する文を書こうとしている。
人とねずみの「はい、チーズ！」	1	□絵と解説文を手がかりに、人とねずみが「はい、チーズ！」という言葉で笑顔になるわけを読み、同じ言葉が異なる働きをすることに気づく。 △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 △原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。 △情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。 □事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。 □目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。 □文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。 □説明や解説などの文章を比較するなどして読み、分かったことや考えたことを、話し合ったり文章にまとめたりする活動。	○原因と結果など情報と情報との関係について理解している。	○「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。	○積極的に原因と結果など情報と情報との関係について理解し、学習の見通しをもって同じ言葉が異なる働きをすることに気づき考えたことを文章にまとめようとしている。

言葉と事実	8	□取り上げられた言語表現の事例とその影響、影響を与えた理由をおさえて読み、自身の言語生活も振り返りながら、事実をとらえる際の言葉の働きについて考えを深める。 △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 △文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。 △原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。 ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見を区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 □事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。 □目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。 □文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。 □文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。	○原因と結果など情報と情報との関係について理解している。	○「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。	○粘り強く論の進め方について考え、学習の見通しをもって事例と解説に気をつけて文章を読み、言葉と事実の関係について考えようとしている。
話し言葉と書き言葉	2	△話し言葉と書き言葉の特徴の違いについて理解したり、場に応じた言葉の選び方の違いや表現の仕方の違いについて理解したりする。 △話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。	○話し言葉と書き言葉との違いに気付いている		○積極的に話し言葉と書き言葉の違いを理解し、学習課題に沿って自身の言語生活を振り返って考えようとしている。
「町じまん」をすいせんしよう	4	◇推薦するもののよさが伝わるように説明したり、納得できるかどうかに留意して聞いたりする。 △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 △文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。 △日常よく使われる敬語を理解し使い慣れること。 △情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。 ◇目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。 ◇話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えること。 ◇資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。 ◇話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること。 ◇意見や提案など自分の考えを話したり、それらを聞いたりする活動。	○情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。		○積極的に相手や目的、内容に合わせた構成を考え、今までの学習を生かして推薦するもののよさが伝わるように説明したり、納得できるかどうかに留意して聞いたりしようとしている。

ポスターを作ろう	6	■構成や表現を工夫して、ポスターを作る。 △話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。 △情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。 ■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。 ■筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。 ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ■引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ■文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。 ■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 ■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。	○話し言葉と書き言葉との違いに気付いている。	○「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。	○「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。	○粘り強くポスター全体の構成や展開を考え、学習の見通しをもって構成や表現を工夫して、ポスターを作ろうとしている。
漢文に親しむ	3	△現代の言葉とは異なる漢文のリズムや響きを読み味わう。 △文章を音読したり朗読したりすること。 △親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。 △古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知ること。 ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。	○文章を音読している。	○親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。	○「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。	○積極的に現代の言葉とは異なる漢文のリズムや響きを理解し、今までの学習を生かして漢文を読み味わいながら音読しようとしている。
敬語	2	△敬語のはたらきと種類を理解して、正しく使う。 △日常よく使われる敬語を理解し使い慣れること。	○日常よく使われる敬語を理解し、使い慣れている。			○積極的に日常よく使われる敬語を理解し、今までの学習を生かして敬語を使う場面や使い方に関心を持ち正しく使おうとしている。
漢字の広場 ② 複合語	1	△複合語の構成や変化、由来などについて理解を深める。 △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 △第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。	○思考に関わる語句の量を増し、話の中で使っているとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。			○積極的に複合語の組み合わせ方について理解し、学習の見通しをもって複合語について、言葉集めをしようとしている。

漢字の広場 ② 四年生で学んだ漢字 ②	1	△絵を見て想像したことをもとに、4年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 △第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ■筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。 ■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。	○前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。	○「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。	○積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵を説明する文を書こうとしている。
知りたいことを決めて、話を聞こう	2	◇聞きたいことを明確にして、話を聞く。 △言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くこと。 △情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。 ◇目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。 ◇話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること。 ◇インタビューなどをして必要な情報を集めたり、それらを発表したりする活動。	○情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。	○「話すこと・聞くこと」において、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。	○粘り強く聞きたいことを明確にして、学習の見通しをもって、話を聞こうとしている。
詩を味わおう 素朴な琴 鳴く虫 山のあなた	2	□さまざまな昔の作品を読みながら、詩の世界を楽しむ。 △比喻や反復などの表現の工夫に気付くこと。 △文章を音読したり朗読したりすること。 △語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き、共通語と方言との違いを理解すること。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。 □登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。 □人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。 □文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。 □文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。 □詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。	○比喻や反復などの表現の工夫に気付いている。 ○語句の由来などに関心をもっているとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き、共通語と方言との違いを理解している。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解している。	○「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。	○進んで昔の作品を読み、学習の見通しをもって詩の世界を楽しもうとしている。

大造じいさんとがん	8	△話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。 △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 □目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。 □目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ■登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。 ■人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。 ■文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。 ■文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。	○思考に関わる語句の量を増し、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。	○「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。 ○「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。	○進んで残雪に対する大造じいさんの心情の変化を読み、学習の見通しをもって「やま場」の場面を見つけたり、大造じいさんの行動について考えたことを文章にまとめようとしている。
鳥	1	△「鳥」を扱った言語表現を集める。 △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 △語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付く、共通語と方言との違いを理解すること。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。 ■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。 ■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。	○思考に関わる語句の量を増し、文章の中で使っているとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。	○「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。	○り強く「鳥」を扱った言語表現を集めようとし、学習の見通しをもって感じたり考えたりしたことについて文章に書こうとしている。
俳句を作ろう	4	■季語や自分の気持ちや様子を表す言葉を選び、俳句を作る。 △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 △比喻や反復などの表現の工夫に気付くこと。 ■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。 ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 ■短歌や俳句をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動	○思考に関わる語句の量を増し、文章の中で使っているとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。	○「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。	○進んで語感や言葉の使い方に対する感覚を意識し、学習の見通しをもって俳句をつくろうとしている

AIとのくらし	6	△思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 △日常よく使われる敬語を理解し使い慣れること。 △原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。 △情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。 ◇目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。 ◇話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えること。 ◇資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。 ◇話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること。 ◇互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすること。 ◇異なる立場を生かした話し合いなど、互いの考えを伝え合う活動。	○原因と結果など情報と情報との関係について理解している。	○互「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。	○粘り強く立場を決めて話し合い、学習の見通しをもってさまざまな意見を聞いて自分の考えを広げようとしている。
漢字の広場 ③ 熟語の構成	1	△二字熟語の構成や由来について理解を深める。 △第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。	○思考に関わる語句の量を増し、話の中で使っているとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。		○粘り強く二字熟語の構成や由来について理解を深め、学習の見通しをもって熟語の構成をもとに意味を考えたり、辞典を使って調べたりしようとしている。
漢字の広場 ③ 四年生で学んだ漢字 ③	1	△絵を見て想像したことをもとに、4年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 △第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 △語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き、共通語と方言との違いを理解すること。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。 ■文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。 ■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。	○前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。 ○語句の由来などに関心をもっているとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き、共通語と方言との違いを理解している。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解している。	○「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。	○積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵を説明する文を書くようとしている。

世界遺産 白神山地からの提言―意見文 を書こう	10	△話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。 △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 △原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。 △情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。 ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ■引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 □目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。 □文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。 ■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。 □説明や解説などの文章を比較するなどして読み、分かったことや考えたことを、話し合ったり文章にまとめたりする活動。	○原因と結果など情報と情報との関係について理解している。	○「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。 ○「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。 ○「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。	○積極的に多様な文章や資料を比べながら読み、学習課題に沿って自分の考えを深め、その考えが伝わるように根拠を明確にして意見文を書こうとしている。
かなづかいで気をつけること	2	△仮名遣いのきまりを理解して、文を正しく書く。 △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。	○文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書いている。		○積極的に仮名遣いのきまりを理解し、学習課題に沿って文を正しく書こうとしている。
漢字の広場 ④ 漢字の成り立ち	1	△漢字の成り立ちについて関心を深める。 △第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 △語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付く、共通語と方言との違いを理解すること。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。	○語句の由来などに関心をもっているとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付く、共通語と方言との違いを理解している。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解している。		○積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習の見通しをもって漢字の成り立ちについて関心を深め、漢字辞典で調べようとしている。
漢字の広場 ④ 四年生で学んだ漢字 ④	1	△絵を見て想像したことをもとに、4年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 △第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ■文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。 ■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。	○前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。	○「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。	○積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵を説明する文を書こうとしている。

雪わたり	6	△比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。 △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 △文章を音読したり朗読したりすること。 ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 □登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。 □人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。 □文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。 □文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。 ■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。 □詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。	○比喩などの表現の工夫に気付いている。	○「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。 ○「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。	○進んで物語の表現の工夫や登場人物の関わりを読み、学習の見通しをもって『雪わたり』の魅力を紹介する文章を書こうとしている。
「図書すいせん会」をしよう	5	□印象に残った作品を取り上げ、推薦の仕方を工夫して、「図書すいせん会」を開く。 □推薦の仕方を工夫して、「図書すいせん会」を開き、読書の幅を広げ合う。 △日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気付くこと。 ■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。 ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ■引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 □文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。 ■事実や経験を基に、感じたり考えたりしたことや自分にとっての意味について文章に書く活動。 □詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。 □学校図書館などを利用し、複数の本や新聞などを活用して、調べたり考えたりしたことを報告する活動。	○日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気付いている。	○「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。	○積極的に推薦の仕方を工夫して、学習課題に沿って「図書すいせん会」を開き、読書の幅を広げ合おうとしている。

言葉で伝える, 心を伝える	3	△相手の立場を意識しながら, 自分の気持ちを言葉で伝える。 △言葉には, 相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くこと。 △原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。 ◇話の内容が明確になるように, 事実と感想, 意見とを区別するなど, 話の構成を考えること。 ◇話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて, 話の内容を捉え, 話し手の考えと比較しながら, 自分の考えをまとめること。 ◇互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い, 考えを上げたりまとめたりすること。 ◇それぞれの立場から考えを伝えるなどして話し合う活動。	○言葉には, 相手とのつながりをつくる働きがあることに気付いている。 ○原因と結果など情報と情報との関係について理解している。	○「話すこと・聞くこと」において, 話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて, 話の内容を捉え, 話し手の考えと比較しながら, 自分の考えをまとめている。 ○「話すこと・聞くこと」において, 互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い, 考えを上げたりまとめたりしている。 ○「話すこと・聞くこと」において, 互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い, 考えを上げたりまとめたりしている。	○積極的に相手の立場を意識し, 今までの学習を生かして相手の立場を意識しながら, 自分の気持ちを言葉で伝えようとしている。
詩を味わおう はたはたのうた	1	□さまざまな昔の作品を読みながら, 詩の世界を味わう。 △思考に関わる語句の量を増し, 話や文章の中で使うとともに, 語句と語句との関係, 語句の構成や変化について理解し, 語彙を豊かにすること。また, 語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して, 語や語句を使うこと。 △比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。 △文章を音読したり朗読したりすること。 △語句の由来などに関心をもつとともに, 時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付く, 共通語と方言との違いを理解すること。また, 仮名及び漢字の由来, 特質などについて理解すること。 □登場人物の相互関係や心情などについて, 描写を基に捉えること。 □人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり, 表現の効果を考えたりすること。 □文章を読んで理解したことに基づいて, 自分の考えをまとめること。 □文章を読んでまとめた意見や感想を共有し, 自分の考えを広げること。 □詩や物語, 伝記などを読み, 内容を説明したり, 自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。	○比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。 ○語句の由来などに関心をもっているとともに, 時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付く, 共通語と方言との違いを理解している。また, 仮名及び漢字の由来, 特質などについて理解している。	○「読むこと」において, 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり, 表現の効果を考えたりしている。	○進んで昔の作品を読み, 学習の見通しをもって詩の世界を味わおうとしている。
和語・漢語・外来語	2	△和語・漢語・外来語の由来と特質を理解し, それぞれから受ける印象のちがいにについて考えることができる。 △思考に関わる語句の量を増し, 話や文章の中で使うとともに, 語句と語句との関係, 語句の構成や変化について理解し, 語彙を豊かにすること。また, 語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して, 語や語句を使うこと。 △語句の由来などに関心をもつとともに, 時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付く, 共通語と方言との違いを理解すること。また, 仮名及び漢字の由来, 特質などについて理解すること。 ◇目的や意図に応じて, 日常生活の中から話題を決め, 集めた材料を分類したり関係付けたりして, 伝え合う内容を検討すること。 ◇それぞれの立場から考えを伝えるなどして話し合う活動。	○語句の由来などに関心をもっているとともに, 時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付く, 共通語と方言との違いを理解している。また, 仮名及び漢字の由来, 特質などについて理解している。	○「話すこと・聞くこと」において, 目的や意図に応じて, 日常生活の中から話題を決め, 集めた材料を分類したり関係付けたりして, 伝え合う内容を検討している。	○積極的に和語・漢語・外来語の由来と特質を理解し, 今までの学習を生かしてそれぞれから受ける印象のちがいにについて考えようとしている。

漢字の広場 ⑤ 同じ音の漢字	1	△同音の漢字、同音異義語について理解する。 △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 △第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 △語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き、共通語と方言との違いを理解すること。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。	○文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書いている。		○積極的に同音の漢字、同音異義語について理解し、学習課題に沿って同じ音の漢字を正しく使い分けようとしている。
漢字の広場 ⑤ 四年生で学んだ漢字 ⑤	1	△絵を見て想像したことをもとに、4年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 △第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ■筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。 ■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。	○前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。	○筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。	○積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵を説明する文を書こうとしている。
まんがの方法	5	△思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 △情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。 ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 □事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。 □目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。 □文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。 □文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること ■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。 □説明や解説などの文章を比較するなどして読み、分かったことや考えたことを、話し合ったり文章にまとめたりする活動。	○思考に関わる語句の量を増し、文章の中で使っているとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。	○「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。Bウ) ○「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。Cウ) ○「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。	○粘り強くまんがの表現方法やおもしろさを理解し、学習の見通しをもってまんがに対する自らの考えの変化を文章に表そうとしている。

ひみつを調べて発表しよう	6	◇資料を生かした構成を考えて、効果的に発表する。 △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 △文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。 △日常よく使われる敬語を理解し使い慣れること。 △情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。 ◇目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。 ◇話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えること。 ◇資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。 ◇話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること。 ◇インタビューなどをして必要な情報を集めたり、それらを発表したりする活動。	○情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。		○進んで資料を生かした構成を考えて、今までの学習を生かして効果的に発表しようとしている。
漢字の広場 ⑥ 送りがなのきまり	1	△送り仮名について理解を深め、正しく書く。 △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 △第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。	○文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けられているとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書いている。		○積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習の見通しをもって送り仮名について理解を深め、正しく書こうとしている。
漢字の広場 ⑥ 四年生で学んだ漢字 ⑥	1	△絵を見て想像したことをもとに、4年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 △第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ■文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。 ■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。	○前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。	○「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。	○積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵を説明する文を書こうとしている。

みずさがしの旅——みんなちがって、みんないい	6	△文の中での語句や係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。 △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句の関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 ■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。 ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること	○文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。	○「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。	○積極的にノンフィクション作品の筆者の心情や考えについて理解し、学習課題に沿って自分の考えをまとめようとしている。
国語の学習 これまで これから	2	◇一年間の国語学習を振り返ったり、これからの学習について考えたりして、計画的に学習できるようにする。 △文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。 ◇目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。	○話の構成や展開、話の種類とその特徴について理解している	○「話すこと・聞くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討している。	○積極的に一年間の国語学習を振り返ったり、これからの学習について考えたりして、今までの学習を生かして計画的に学習しようとしている。

学校名:江戸川区立南葛西小学校

教科	国語	学年	第6学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
自分に質問してみよう	2	◇「自己紹介ビンゴゲーム」を通して、自身のことを紹介し合う。 △言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 △相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。 ◇目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えるために必要な事柄を選ぶこと。 ◇相手を意識して、話の中心が明確になるように理由や事例などを挙げながら、話の構成を考えること。 ◇話の中心が伝わるように、場面を意識して言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。 ◇必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつこと。 ◇質問するなどして情報を集めたり、それらを発表したりする活動。	○言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付いている。	○「話すこと・聞くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討している。	○積極的に自分のことを客観的に捉え、今までの学習を生かして質問について考えようとしている。
風景 純銀もざいく	1	□繰り返しの響きや意味に気をつけて音読し、言葉の意味を考える。 △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、話や語句を使うこと。 △比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。 △文章を音読したり朗読したりすること。 □登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。 □人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。 □文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。 □詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。	○思考に関わる語句の量を増し、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。 ○文章を音読したり朗読したりしている。	○人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。	○進んで言葉の意味を考え、繰り返しの響きや意味に気をつけて音読しようとしている。
図に表して考えよう	3	■考えや意見を図に書いてまとめる。 △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、話や語句を使うこと。 △情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。 ■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。 ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。	○情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。	○「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。	○粘り強く伝えたいことを明確にしようとし、学習の見通しをもって考えや意見を図に書いてまとめようとしている。

春はあけぼの	3	△『枕草子』の文章にふれ、リズムや響きを味わいながら音読し、『枕草子』ふうの文章を書く。 △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 △親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。 △古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知ること。 ■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること ■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 □文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。 ■事実や経験を基に、感じたり考えたりしたことや自分にとっての意味について文章に書く活動。	○親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。	○「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。 ○「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。	○進んで語感や言葉の使い方に対する感覚を意識し、学習の見通しをもって『枕草子』ふうの文章を書こうとしている。
薫風 「迷う」	3	□筆者のものの見方や感じ方などに触れ、随筆に親しむ。 △文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。⇒◎知技(1)カ △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 □事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。 □目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。 □人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。 □文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。 □文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。	○文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。	○「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。 ○「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。	○積極的に随筆の特徴について理解し、今までの学習を生かして、者のものの見方や感じ方などに触れ、随筆に親しもうとしている。

随筆を書こう	6	■心を動かされたできごとから書く事柄を決め、随筆を書く。 △話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。 △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 △文の中の語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。 △比喻や反復などの表現の工夫に気付くこと。 ■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。 ■筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。 ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ■引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ■文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。 ■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 ■事実や経験を基に、感じたり考えたりしたことや自分にとっての意味について文章に書く活動。	○思考に関わる語句の量を増し、文章の中で使っているとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。 ○比喻や反復などの表現の工夫に気付いている。	○「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。〔思考力、判断力、表現力等〕Bア) ○「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。	○積極的に随筆の特徴について理解し、学習課題に沿って心を動かされたできごとから書く事柄を決め、随筆を書こうとしている。
漢字の広場 ① 三字以上の熟語の構成	1	△三字以上の熟語の構成について理解を深め、由来に関心をもつ。 △第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。	○思考に関わる語句の量を増し、文章の中で使っているとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。		○積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習の見通しをもって熟語の由来に関心をもち調べようとしている。
漢字の広場 ① 五年生で学んだ漢字 ①	1	△絵を見て想像したことをもとに、5年生で学んだ漢字などを使って文を作り、書く。 △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 △第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ■筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。 ■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 ■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。	○前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。	○「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。	○積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵を説明する文を書こうとしている。

雪は新しいエネルギー	6	△文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 △原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。 △情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。⇒◎知技(2)イ■筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。 ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 □事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。 □目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。 □文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。 □文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。 ■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。	○情報と情報との関係付けの仕方、語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。	○「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。([思考力、判断力、表現力等]Bウ) ○「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。 ○「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。	○積極的に雪エネルギーの利用に対する筆者の主張と取り上げた事例の関係、残された課題などを検討し、今までの学習を生かして、筆者の説明の仕方や雪エネルギーの利用について考えをまとめようとしている。
主語と述語の対応をみる	2	△主語と述語の対応を確認して、文のねじれに気づき、正しく直す。 △文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。	○文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。		○積極的に主語と述語の対応について理解し、今までの学習を生かして、文のねじれに気づき、正しく直そうとしている。
地域の防災について話し合おう	6	◇意見の違いを大事にしながら話し合い、考えを深める。 △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 △日常よく使われる敬語を理解し使い慣れること。 ◇目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。 ◇話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えること。 ◇資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。 ◇話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること。 ◇互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすること。 ◇それぞれの立場から考えを伝えるなどして話し合う活動。	○思考に関わる語句の量を増し、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。	○「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。	○粘り強く意見の違いを大事にしながら話し合い、学習の見通しをもって考えを深めようとしている。

パンフレットで知らせよう	4	■相手や目的に応じて内容や構成を考え、パンフレットを作る。 △話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。 △文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。 △情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。 ■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。 ■筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。 ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見を区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ■引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ■文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。 ■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 ■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。	○情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。	○「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。〔[思考力、判断力、表現力等]Bイ〕 ○「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。 ○「書くこと」において、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。	○積極的に相手や目的に応じて内容や構成を考え、学習課題に沿ってパンフレットを作ろうとしている。
雨	1	△「雨」を扱った言語表現を集める。 △語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付く、共通語と方言との違いを理解すること。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。 ■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。 ■短歌や俳句をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。	○語句の由来などに関心をもっているとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付く、共通語と方言との違いを理解している。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解している。	○「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。	○粘り強く「雨」を扱った言語表現を集め、学習の見通しをもって「言葉ノート」を作ろうとしている。
世代による言葉のちがい	2	△世代による言葉遣いの違いについて理解し、相手や場面に応じて適切な言葉を選んで使うことができるようにする。 △言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くこと。 △語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付く、共通語と方言との違いを理解すること。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。 ◇互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすること。 ◇インタビューなどをして必要な情報を集めたり、それらを発表したりする活動。	○語句の由来などに関心をもっているとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付く、共通語と方言との違いを理解している。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解している。	○「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。	○積極的に世代による言葉遣いの違いについて理解し、学習課題に沿って相手や場面に応じて適切な言葉を選んで使おうとしている。
漢字の広場 ② 複数の意味をもつ漢字	1	△複数の意味をもつ漢字が構成する熟語の意味に関心をもつ。 △第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 △語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付く、共通語と方言との違いを理解すること。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。	○語句の由来などに関心をもっているとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付く、共通語と方言との違いを理解している。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解している。		○積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習の見通しをもって複数の意味をもつ漢字が構成する熟語の意味を考えようとしている。

漢字の広場 ② 五年生で学んだ漢字 ②	1	△絵を見て想像したことをもとに、5年生で学んだ漢字などを使って文を作り、書く。 △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 △第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ■筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。 ■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 ■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。	○前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。	○「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。	○積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵を説明する文を書くとしている。
川とノリオ	7	△比喻や反復などの表現の工夫に気付くこと。 △文章を音読したり朗読したりすること。 △文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。 ◇目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。 ◇互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすること。 □登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。 □人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。 □文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。 □文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。 ◇意見や提案など自分の考えを話したり、それらを聞いたりする活動。 □詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。	○比喻や反復などの表現の工夫に気付いている。 ○文章を音読している。	○「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。 ○「読むこと」において、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えている。 ○「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。 ○「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。 ○「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。	○進んで優れた表現を味わいながら、人物の心情を読み優れた表現を味わいながら、人物の心情を読み、学習の見通しをもって優れた表現についての感想を話し合おうとしている。
教えて！あなたの「とっておき」	2	◇話し手の意図を考慮しながら聞き、自分の意見と比べて考えをまとめる。 △言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くこと。 △情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。⇒知技(2)イ◇目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。 ◇話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること。 ◇インタビューなどをして必要な情報を集めたり、それらを発表したりする活動。	○言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付いている。	○「話すこと・聞くこと」において、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。	○積極的に話し手の意図を考慮し、今までの学習を生かして自分の意見と比べて考えをまとめようとしている。

詩を味わおう イナゴ	1	□言葉の広がりを楽しむながら、詩の世界を楽しむ。 △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 □登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。 □文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。 □詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。	○思考に関わる語句の量を増し、話の中で使っているとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。	○「読むこと」において、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えている。	○積極的に言葉の広がりを楽しむ、学習課題に沿って詩の世界を楽しもうとしている。
「知恵の言葉」を集めよう	1	△生活の中で使われている知恵の言葉に気がつき、言葉の使い方への理解を深める。 △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 △原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。 △情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。 ■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。 ■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。	○思考に関わる語句の量を増し、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。 ○原因と結果など情報と情報との関係について理解している。	○「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。	○進んで語感や言葉の使い方に対する感覚を意識し、学習の見通しをもって自分の「知恵の言葉」をつくらうとしている。
物語を作ろう	6	△思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 △文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。 △比喻や反復などの表現の工夫に気付くこと。 ■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。 ■筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。 ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ■引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ■文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。 ■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 ■短歌や俳句をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。	○文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。	○「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。 ○「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。 ○「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。	○積極的に物語のつくりの特徴について理解し、学習課題に沿って写真から想像を広げ、展開を考えて物語を作ろうとしている。
会話を広げる	3	△ 相手とのつながりをつくる言葉の働きを意識し、相手との言葉の掛け合いの工夫を考える。 △言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くこと。 △原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。 ◇話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること。 ◇互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすること。 ◇それぞれの立場から考えを伝えるなどして話し合う活動。	○言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付いている。	○「書くこと」において、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。 ○「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。	○積極的に相手とのつながりをつくる言葉の働きを意識し、学習課題に沿って相手との言葉の掛け合いの工夫を考えようとしている。

漢字の広場 ③ 熟語の使い分け	1	△意味のよく似た熟語の使い方の違いを理解し、使い分ける。 △第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。	○思考に関わる語句の量を増し、文章の中で使っていると同時に、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。		○積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習の見通しをもって意味のよく似た熟語の使い方の違いを理解し、使い分けようとしている。
漢字の広場 ③ 五年生で学んだ漢字	1	△絵を見て想像したことをもとに、5年生で学んだ漢字などを使って文を作り、書く。 △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 △第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ■文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。 ■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 ■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。	○前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。	○「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。	○積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵を説明する文を書こうとしている。
あなたは感じる？	1	□友達と自分の感じ方の違いについて考える。 △原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。⇒知技(2)ア △情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。 □文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。	○情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。	○「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。	○進んで文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、学習課題に沿って友達と自分の感じ方の違いについて考えようとしている。

ほくの世界、君の世界	7	□筆者の考えに気をつけながら、文章の要旨を捉え、「心の世界」について考える。 △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 △文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。 △原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。 △情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。 ■筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。 ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ■引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 □事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。 □目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。 □文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。 □文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。 ■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。 □説明や解説などの文章を比較するなどして読み、分かったことや考えたことを、話し合ったり文章にまとめたりする活動。	○原因と結果など情報と情報との関係について理解している。	○「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。 ○「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。 ○「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。	○進んで筆者の考えに気をつけながら、文章の要旨を捉え、自分の経験をふりかえりながら「心の世界」について考えようとしている。
「うれしさ」って何？——哲学対話をしよう	4	◇お互いの考えや意見を関連づけて述べ合い、共通点や相違点をもとに分類する。 △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 △原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。 △情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。 ◇目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。 ◇話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えること。 ◇資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。 ◇話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること。 ◇互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめること。 ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ◇それぞれの立場から考えを伝えるなどして話し合う活動。 ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。	○原因と結果など情報と情報との関係について理解している。	○「話すこと・聞くこと」において、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。 ○「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめること。 ○「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。	○積極的にお互いの考えや意見を関連づけて述べ合い、今までの学習を生かして共通点や相違点をもとに分類しようとしている。

言葉は時代とともに	6	△言葉がその時代の人々とともに変化してきたことを知り、自分の考えをまとめる。 △古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知ること。 △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 △語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き、共通語と方言との違いを理解すること。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。 △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。	○古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知っている。	○「書くこと」において、文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。	○積極的に言葉がその時代の人々とともに変化してきたことを理解し、学習課題に沿って自分の考えをまとめようとしている
自分の考えを発信しよう	6	△話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。 △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 △文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。 △原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。 △情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。 ■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。 ■筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。 ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ■引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ■文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。 ■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。	○文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。	○「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。 ○「書くこと」において、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。 ○「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。 ○「書くこと」において、文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。	○積極的に情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し、学習課題に沿って理由や根拠を示して、説得力のある意見文を書こうとしている。

漢字の広場 ④ 音を表す部分	1	△形声文字について、音と意味、成り立ちも含めて理解する。 △第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 △語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気づき、共通語と方言との違いを理解すること。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。	○語句の由来などに関心をもっているとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気づき、共通語と方言との違いを理解している。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解している。		○積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習の見通しをもって形声文字について、音と意味、成り立ちも含めて理解しようとしている。
漢字の広場 ④ 5年生で学んだ漢字 ④	1	△絵を見て想像したことをもとに、5年生で学んだ漢字などを使って文を作り、書く △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 △第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 ■事実や経験を基に、感じたり考えたりしたことや自分にとっての意味について文章に書く活動。	○前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。		○積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵を説明する文を書こうとしている。
きつねの窓	8	△文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 ■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。 ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 □登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。 □人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。 □文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。 □文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。 ■短歌や俳句をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 □詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。	○思考に関わる語句の量を増し、話の中で使っているとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。	○「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。 ○「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。	○進んで登場人物の心情の変化を考え、学習の見通しをもって想像したことを書こうとしている。

書評を書いて話し合おう	6	△これまでに読んだ本の中から好きな本について書評を書き、紹介合う。 △話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。 △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、話や語句を使うこと。 △文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。 △日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付くこと。 ◇目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。 ◇話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えること。 ◇資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。 ◇話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること。	○日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付いている。	○「話すこと・聞くこと」において、話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えている。 ○「話すこと・聞くこと」において、資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫している。 ○「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。 ○「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。	○進んで書き表し方に着目して文を整え、これまでに読んだ本の中から好きな本について書評を書き、紹介し合おうとしている。
敬意を表す言い方	2	△話す相手や場面に応じて、敬意を表す言い方を適切に使い分ける。 △日常よく使われる敬語を理解し使い慣れること。	○日常よく使われる敬語を理解し、使い慣れている。		○積極的に語感や言葉の使い方に対する感覚を意識し、学習課題に沿って敬意を表す言い方を適切に使い分けようとしている。
言葉と私たち	2	言葉に対する自分の考えを書き、言葉への関心を持つ。 △話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。 △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 ◇目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。 ◇話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えること。 ■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。 ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 □目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。 □文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。 □説明や解説などの文章を比較するなどして読み、分かったことや考えたことを、話し合ったり文章にまとめたりする活動。 □学校図書館などを利用し、複数の本や新聞などを活用して、調べたり考えたりしたことを報告する活動。	○話し言葉と書き言葉との違いに気付いている。	○「話すこと・聞くこと」において、話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えている。 ○「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。 ○「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。	○粘り強く論の進め方について考え、学習の見通しをもって言葉に対する自分の考えを書こうとしている。

漢字の広場 ⑤ 同じ訓をもつ漢字	1	△異字同訓について理解を深め、関心をもつとともに正しく使い分ける。 △第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 △語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き、共通語と方言との違いを理解すること。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。	○・思考に関わる語句の量を増し、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。		○積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習の見通しをもって異字同訓について理解を深め、関心をもつとともに正しく使い分けようとしている。
漢字の広場 ⑤ 5年生で学んだ漢字⑤	1	△絵を見て想像したことをもとに、5年生で学んだ漢字などを使って文を作り、書く △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 △第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。	○前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。	○「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。	○積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵を説明する文を書こうとしている。
伊能忠敬	11	△文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 △文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。 ■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。 ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 □登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。 □人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。 □文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。 □文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること ■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。 □詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。	○文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。	○「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。 ○「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている ○「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。 ○「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。	○積極的に原因と結果など情報と情報との関係について理解し、学習課題に沿って伊能忠敬の生き方を考えたあと、興味のある人物の伝記を読んで、その人物を紹介しようとしている。

日本語の文字	2	△日本語の文字の由来や特徴に関心を持ち、適切に使い分けができる。 △語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き、共通語と方言との違いを理解すること。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。 △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いにも注意して書くこと。 ◇目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。 ◇意見や提案など自分の考えを話したり、それらを聞いたりする活動。	○語句の由来などに関心をもっているとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き、共通語と方言との違いを理解している。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解している。	○「話すこと・聞くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討している。	○積極的に日本語の文字の由来や特徴を理解し、今までの学習を生かして適切に使い分けようとしている。
漢字の広場 ⑥ さまざまな読み方	1	△同形異語や熟字訓、同字異訓についての理解を深め、言葉の使い方に関心をもつ。 △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 △第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 △語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き、共通語と方言との違いを理解すること。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。	○思考に関わる語句の量を増し、話の中で使っているとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。		○積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習の見通しをもって同形異語や熟字訓、同字異訓についての理解を深め、言葉の使い方に関心をもとうとしている。

ひろがる言葉	8	△話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。 △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 △文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。 ◇目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。 ◇資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。 ◇話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること。 ◇互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすること。 ■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。 ■筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。 ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ■引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ■文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。 ■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 ◇目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。 ■事実や経験を基に、感じたり考えたりしたことや自分にとっての意味について文章に書く活動。	○話し言葉と書き言葉との違いに気付いている。	○「話すこと・聞くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討している ◇「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。 ○「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。 ○「書くこと」において、文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。	○積極的に卒業を前に六年間の言葉の学びを振り返り、成長を自覚するとともに、中学校での新しい言葉との出会いの希望を持とうとしている。

